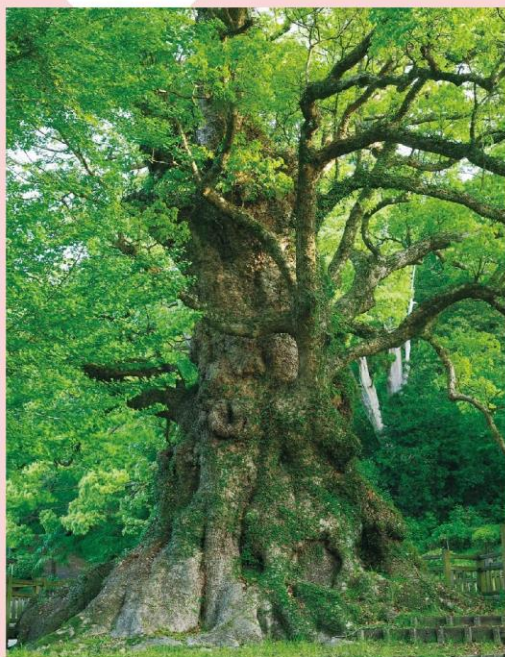




始良市観光おもてなし計画

おもてなしの心あふれ、“本物”が光るまちづくり
～ともに磨き、創ろう 光り輝く「あいら観光」の魅力～



平成26年3月
始良市



おもてなしの心あふれ “本物”が光るまちづくり



鹿児島県始良市は、平成22年3月、蒲生・始良・加治木の旧3町が合併し、県内で19番目の市として誕生しました。今年で5年目を迎えています。本市は県央に位置しており、県都鹿児島市をはじめ、県内主要都市に隣接しているという地理的条件や交通の利便性に優れています。このようなことから、新市誕生以来、民間事業者の本市への期待感が上昇し、経済的投資意欲も高まっている状況にあります。

本市は、平成24年3月、最上位計画である第1次始良市総合計画を策定しました。この計画の基本理念に掲げた「県央の良さを活かした、県内一くらしやすいまちづくり」の実現を目指し、「市民の暮らし」を一番に考える“まちづくり”を進めています。

観光は、21世紀のリーディング産業と言われ、様々な地場産業との連携により、地域経済に大きな効果をもたらすことが期待されています。また、観光を振興することで、人、もの、情報の交流が活発化し、経済の活性化は言うに及ばず、地域の再発見につながることで、市民生活にゆとりや豊かさを創出します。

本市におきましても、このような視点に立ち、市民一人一人の「おもてなしの心」があふれ、各地域に存在するありのままの素材である始良市の「本物」を光り輝かせる観光都市を、市民と協働して創り上げていく必要があると考えています。

また、持続可能な観光都市として発展していくためには、観光客を温かく迎えるホスピタリティの向上、日帰り通過型観光から宿泊滞在型観光への移行などといった諸課題への積極的な取り組みと新たな観光の魅力づくりが求められています。

このようなことを踏まえ、本市観光の新たなステージとなる今後5年間を見据えた、本市における観光施策を総合的かつ計画的に推進するための指針となるものとして「始良市観光おもてなし計画」（始良市観光基本計画）を策定しました。

本計画による観光まちづくりの実現のためには、市民、事業者、関係団体、行政が協働し一体となって取り組む必要がありますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

終わりに、本計画の策定に当たり、貴重なご意見やご提言をいただきました市民の皆様をはじめ、活発な議論を重ねていただきました始良市観光開発審議会委員並びに関係各位に対し、衷心より御礼を申し上げます。

平成26年 3月

始良市長 笹山 義弘

始良市観光おもてなし計画 目次

第1章 計画の基本的考え方	1
1 計画策定の背景	2
2 計画策定の目的	3
3 計画の位置づけ	4
4 計画の期間	5
第2章 始良市の観光の現状と課題	7
1 始良市の観光の現状	8
2 始良市の観光における課題	10
第3章 始良市の観光戦略	11
1 始良市の観光の目指すべき姿	12
2 始良市の観光振興の基本方針	13
3 始良市の観光振興を実現するための基本施策	14
① 観光メニュー・プログラムづくり	15
② 観光資源磨きと新たな掘り起こし	17
③ 観光資源周辺環境整備	19
④ 人、組織をつなぐ体制づくり	20
⑤ 各地域、組織の取組みの維持、強化	21
⑥ 市民が地域を知る、学ぶ、誇りに思う仕掛けづくり	23
⑦ 情報発信手法の多様化とメディアの活用	25
⑧ 広域連携メニューづくり	27
⑨ 広域連携体制の維持、強化	27
⑩ 観光関連事業者等との連携	28
⑪ 観光関連事業者等の育成	28
⑫ 地域経済活性化の促進	29
4 始良市の観光振興の重点プロジェクト	30
重点1 市民主体のおもてなしの仕組みづくり	31
重点2 多様な観光メニューづくり	35
重点3 観光拠点施設づくり	40
第4章 計画の推進体制	45
資料編	47
1 策定経緯	48
2 始良市の特色	53
3 始良市の観光動向	54
4 始良市の観光資源の状況	59
5 市民及び来訪者意向	60
6 用語集	63



第 1 章 計画の基本的考え方

第1章 計画の基本的考え方

1. 計画策定の背景

(1) 国の観光の動向

わが国では、平成19年1月の「観光立国推進基本法」の施行、同年6月の「観光立国推進計画」の閣議決定などをはじめ、平成20年10月には国土交通省の外局として「観光庁」を設置し、国全体として官民を挙げて観光立国の実現に取り組む体制を整備しています。

観光には、経済活性化の起爆剤として大きな期待が寄せられており、長らく経済が低迷し地域が疲弊する中、人口減少・少子高齢化の閉塞状況を打ち破り、急速に経済成長するアジアの観光需要を取り込んで元気な日本を復活させるため、戦略分野の一つとして「観光立国の実現」を掲げました。さらに震災を経て、地域経済の復興に貢献する役割も期待されるようになりました。また、平成23年12月に閣議決定された「日本再生の基本戦略」では、国の光を示す“観光”の振興が日本再生には不可欠であることも示されています。

平成24年3月には新たな「観光立国推進基本計画」が閣議決定され、観光をめぐる現在の課題を克服し、日本の成長を牽引するべく、平成29年3月までの5年間に更なる飛躍をするため、基本計画の策定の方向性として、「観光の裾野の拡大」と「観光の質の向上」を掲げています。

■観光行政をめぐる最近の動き

平成15年 1月	総理大臣が国会施政方針演説において、日本を訪れる外国人旅行者を2010（平成22）年に倍増させることを目標として掲げる
平成15年 4月	ビジット・ジャパン・キャンペーン開始
平成17年 1月	総理大臣が国会施政方針演説において「2010年までに外国人訪問者を1,000万人にする目標の達成を目指します」と発言
平成18年12月	議員立法により「観光立国推進基本法」が成立
平成19年 6月	観光立国推進基本計画を閣議決定
平成20年10月	国土交通省に観光庁が設置される
平成22年 6月	平成22年6月に閣議決定された「新成長戦略」において、7つの戦略分野の一つとして「観光立国・地域活性化」が掲げられる
平成24年 3月	（改定）「観光立国推進基本計画」を閣議決定
平成24年 7月	閣議決定された「日本再生戦略」において、11の成長戦略の柱の一つとして観光立国戦略が掲げられる
平成24年 9月	観光産業振興施策の基礎資料を得ることを目的とした「観光地域経済調査」を観光庁が実施（平成25年8月調査結果速報を公表）

しかしながら、国内では、平成22年における国内宿泊観光旅行を全く行わない国民の割合は64.4%にも及んでいます。特に、若者の割合が大きくなっていることが顕著であり、これが定着し、長期的に国民全体の旅行行動が鈍ることも危惧されているところです。

国民の国内宿泊旅行の動向をみると、平成22年における国民1人当たりの国内宿泊観光旅行宿泊数は、2.12泊となっており、回数及び宿泊数ともに減少傾向にあります。これらの要因としては、世界的な金融危機による景気低迷の影響や趣味・レジャーの多様化による旅行の魅力の相対的な低下などが考えられ、円高等による国内旅行から海外旅行へのシフトが進んだことなども考えられます。

また、今後の生活の力点に関する意識動向については、「レジャー・余暇生活」が最も高く、次いで「食生活」が高くなっています。

（２）鹿児島県の観光の動向

鹿児島県では、県、市町村、県民、観光関係事業者等の共生と協働により、観光立県の実現に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、「観光立県かごしま県民条例」を平成２１年４月から施行しています。

この条例前文において、観光産業は、宿泊業や旅行業のみならず、鹿児島県の基幹産業である農林水産業や運輸業、製造業その他の産業とも密接な関係を有する総合的な産業であり、観光の振興を図ることは、観光旅行者による消費の拡大などの直接的な効果にとどまらず、観光旅行者と地域の人々との交流、相互理解を促進し、地域における雇用の拡大、地域経済の活性化、潤いのある豊かな生活環境の創造などにもつながるものであるとしています。

また、この条例を踏まえ、平成２２年３月には、県、市町村、県民、観光関係事業者及び観光関係団体が、相互に特性や役割を認識し、尊重し合いながら、一体となって「観光立県かごしま」の実現に向けた施策に、総合的かつ計画的に取り組むためのよりどころ（指針）となるものとして「鹿児島県観光振興基本方針」を策定しました。

同基本方針では、基本目標を「おもてなしの心と本物の素材で形成する、世界を魅了する観光地“KAGOSHIMA”」とし、観光の振興を図ることにより、豊かで活力ある地域社会づくりを実現し、地域経済の持続的発展を目指すことが「観光立県」の意義であるとしています。

また、「始良・伊佐地域」（霧島市、伊佐市、始良市、湧水町）の施策の方向性については、下記のように定められています。

地域の特性を踏まえ、カルデラの恵みである霧島連山や温泉群等の豊かな資源を生かした観光地づくりやグリーン・ツーリズム等の体験型観光等を推進します。

また、鹿児島空港、九州縦貫自動車道、東九州自動車道、日豊本線、肥薩線などが集中する交通の要衝としての利点も生かしながら、芸術性・文化性の高いイベントの開催等により地域イメージを発信するなど、積極的な誘客宣伝に取り組みます。

鹿児島県の観光入込客数は、リーマンショックや新型インフルエンザ流行の影響により減少した年もあるものの、概ね順調に増加を続けています。この要因の一つとしては、平成１６年の九州新幹線新八代～鹿児島中央駅間の部分開業や平成２３年の九州新幹線鹿児島ルート全線開通などにより、北部九州地域や中国・関西地域との時間距離が短縮されたことが挙げられます。また、上記の交通アクセスの向上やNHK大河ドラマ「篤姫」、「龍馬伝」放送等の機会に、官民挙げての観光キャンペーンの実施により、うまく観光客の増加につながれたことが挙げられます。

２．計画策定の目的

この計画は、平成２４年３月に策定した「第１次始良市総合計画」に基づき、「おもてなしの心」による観光交流人口の拡大を図るため、始良市の持つ潜在的な可能性を最大限に活かし、将来にわたって持続的に提供・享受できるような魅力ある観光地づくりを進め、もう一度訪れたいくなるようなまちづくりの方向を示すものです。

また、この計画は、観光に関する国及び鹿児島県の動向を踏まえ、行政、市民、観光関係団体、事業者等の共生と協働のもと、始良市における観光施策を総合的かつ計画的に推進するための指針となるものです。

3. 計画の位置づけ

この計画は、平成24年3月に策定した第1次始良市総合計画に沿ったものとし、基本理念である「県央の良さを活かした、県内一くらしやすいまちづくり」の実現に向け、観光分野の短期的・中期的な個別計画として策定します。

第1次始良市総合計画では、「将来像」のうち観光に関連したものとしては「地域資源を活かした活力ある産業の育つまち」を掲げています。また、「基本方針」のうち観光に関連したものとしては「地域の魅力と資源を活かした観光の振興を図る」を掲げ、主要施策として下記の11項目を示しています。

第1次始良市総合計画

計画期間 基本構想：平成24年度から平成30年度までの7年間

前期基本計画：平成24年度から平成26年度までの3年間

後期基本計画：平成27年度から平成30年度までの4年間

基本理念 県央の良さを活かした、県内一くらしやすいまちづくり

(観光に関連した) 将来像 地域資源を活かした活力ある産業の育つまち

(観光に関連した) 基本方針 地域の魅力と資源を活かした観光の振興を図る

(観光に関連した) 主要施策

- ・ 魅力ある観光振興策を計画的に推進するための観光基本計画の策定
- ・ 観光施設や観光案内標識等の整備、機能の充実と魅力ある観光情報の発信
- ・ 観光協会(観光素材の発掘、宣伝等)及び特産品協会(新たな特産品の開発)との連携促進
- ・ 各種イベントの開催による交流人口増加策の推進
- ・ 観光資源や観光ルートの開発、定着の促進
- ・ 周遊観光バス「あいらびゅー号」による観光ルート等の確立と効果的な宣伝等の推進
- ・ 「おもてなしの心」の醸成等による観光客の誘致とリピーターの拡大
- ・ パワースポットやストーリー性のある観光地の創出
- ・ 着地型と滞在型を組み合わせた観光振興の推進
- ・ 各種スポーツ大会や合宿・コンベンション等の誘致の促進
- ・ 県や近隣市町との連携による観光誘致・宣伝等の促進

【個別計画】

始良市観光おもてなし計画

【第1次始良市総合計画】

実施計画

【関連計画等】

始良市都市計画マスタープラン

始良市環境基本計画

始良市コミュニティビジョン(検討中)

始良市過疎地域自立促進計画

始良市景観計画(検討中)

始良市教育振興基本計画

4. 計画の期間

計画期間は平成26年度を初年度とし、長期的な展望も視野に入れた5か年を対象に前期2か年と後期3か年とし、平成30年度を目標年次とします。

また、前期2か年の進捗を検証して新たな課題等を見極め、後期3か年における計画の見直しを行い、第1次始良市総合計画の後期基本計画との整合を図ります。

年次ごとの検証については、第1次始良市総合計画の実施計画に即したローリングができるような連携を行います。

年 度		2 6	2 7	2 8	2 9	3 0
項 目						
第1次始良市総合計画	基 本 構 想					
	基 本 計 画	(後期 4 年間)				
	実 施 計 画	(第 4 次実施計画)				
(第 5 次実施計画)						
(第 6 次実施計画)						
始良市観光おもてなし計画		前期：2 か年		後期：3 か年		



第2章 始良市の観光の現状と課題

第2章 始良市の観光の現状と課題

1. 始良市の観光の現状

始良市は、平成22年3月23日の新市誕生（合併）に伴い、観光振興の中心となる始良市観光協会が設立され、官民協働の観光によるまちづくりを進めており、その現状を以下のとおり整理します。また、現状に基づく観光の強みと弱みを次ページに整理します。

●活発な市民活動

始良市は、地域ごとの取組みが盛んで、神社仏閣、史跡、伝統芸能等の地域の歴史・文化の伝承・PR、重富海岸や森林・田園等の自然環境の保全などを主体的に担う活動団体が各地域に存在しています。観光面においても、旧3町それぞれの観光ガイド組織によるボランティアガイドツアーのほか、蒲生地域で取り組まれている「カモコレ」やNPO法人くすの木自然館による「あいらエコツーリズムプロジェクト」「錦江湾エコツーリズムプロジェクト」、NPO法人うるし里山ミュージアムによる都市農村交流の実施など、市民が主体となった動きがみられます。

また、「あいらん家うまいもんプロジェクト」等のテーマ別での取組み連携の動きも出てきていますが、地域間、様々な主体間が連携した取組みはまだ少ない状況です。

●豊富な観光資源

始良市には、海岸部から山間部に至る多様な自然環境に加え、各地域に歴史や文化が息づいており、一つの市内で多彩な楽しみ方ができます。特に県下の指定数を誇る文化財や霧島錦江湾国立公園である重富海岸をはじめとした海岸部は、重要な観光資源です。その一方で、各観光資源が点で存在し、線としてのつながりや面としての広がりがない上に、観光地化されていない観光資源が多いため、各ポイントでの案内や他の資源への誘導が不足しており、資源同士をつなぎ、市内を巡る仕掛けが十分でない状況が見られます。

●多様な情報発信

始良市には観光協会のWEBサイトやパンフレット、マップ等の様々な情報発信ツールが存在しており、その種類は豊富です。平成23年度から運行している市内周遊観光バス「あいらびゅー号」（乗車料金：500円／人、運行日：土・日曜日、祝日の1日1便）は乗車率が高く、始良市の魅力を知る入口や点在する資源をつなぐ手段となっています。また、始良・伊佐地域観光連絡協議会や錦江湾奥会議等の市域を越えた広域連携の中での情報発信の体制が構築されています。その一方で、始良市の全国的な認知度はあまり高くないのが現状です。

●広域交通へのアクセスが良好な立地

始良市にはJRの駅が5か所、高速道路のインターチェンジが2か所立地し、鹿児島空港や鹿児島中央駅からの広域交通アクセスが良好で、コンベンションやグルメ大会の誘致などの広域交流拠点としての可能性を秘めています。その一方で、市内に宿泊施設が少なく、多くの宿泊客を受け入れることができないのが現状です。

また、県内観光客の50%以上を占める鹿児島・桜島地区と霧島地区間に位置する主要観光動線上にあり、両エリアの観光客を取り込める可能性を秘めています。現在は始良市には立ち寄る人が少ない状況です。

■ 始良市の観光における強みと弱み

	強 み	弱 み
市民活動	・ 各地域で多様なNPOが活発に活動 ・ ボランティアガイドの存在 ・ 地域ぐるみの体験プログラム、学習機会の提供(カモコレ、エコツーリズム、都市農村交流等) ・ あいらん家うまいもんプロジェクトによる事業者の連携体制の構築 など	・ 個別の取組みが中心であり、各組織が取組みの連携を図るきっかけ・場が少ない ・ 観光振興の目指すべき方向性の共有がされていない ・ 観光協会が独立組織でなく、観光の中核機能が明確でない など
観光資源	・ 文化財の指定数が県内No. 1 ・ 潜在的可能性の高い観光資源の存在(大クス、重富海岸、桜島の眺望、布引きの滝、龍門滝、島津義弘公ゆかりの地、3つの旧街道等) ・ 新旧のイベント、祭りが豊富 ・ 蒲生観光交流センター など	・ 各資源の存在があまり知られていない ・ 各ポイントでの資源の案内が不足している(資源への誘導、資源自体の説明) ・ 資源同士をつなぐ案内がない(他の資源への誘導がない) ・ 市内の資源を巡るための仕掛けが十分でない(観光ルートとしてのPR不足) など
情報発信・PR	・ あいらびゅ一号の運行(乗車率が高い) ・ 多様なパンフレット・マップの制作 ・ あいらVIEWでのSNSと連動した情報発信 ・ 広域での情報発信(始良・伊佐観光連絡協議会、錦江湾奥会議等) ・ 「あいら」をもじった女性向けのイメージ戦略の展開 など	・ 始良市自体の知名度が低い(存在を知らない、読み方がわからない) ・ パンフレット・マップを活かし切れていない(種類が多だけで有効に使われていない) ・ 駅や桜島サービスエリアでの情報発信が不足している ・ 観光情報の一元化、統一が十分でない など
アクセス	・ 広域交通拠点(鹿児島空港、鹿児島中央駅)との近接性 ・ 鹿児島市、霧島市に隣接し、立ち寄りやすい位置関係(両エリアから観光客を取り込める可能性) ・ 動線がクロスする交通の要衝(2つのインターチェンジ、5つの駅、国道10号、加治木港) など	・ 各観光資源やイベントには、自動車での来訪者がほとんど ・ JR駅から観光資源・施設へのアクセスが悪い ・ 始良市を通っても通過する観光客がほとんど(観光で立ち寄る場所として認識されていない) など
滞在的可能性	・ スポーツ合宿が可能な始良市総合運動公園、コンベンション機能を備えた加音ホール ・ 桜島サービスエリアの立地 ・ 多様な飲食店、カフェの立地 ・ 交流、宿泊機能の存在(健康の駅フォントナの丘かもう、直売所、温泉等) など	・ 大規模な宿泊施設がない ・ 日帰り客がほとんど ・ 宿泊機能と連携した観光メニューがない ・ 桜島サービスエリアの立ち寄り客を始良市へ誘導できていない など

2. 始良市の観光における課題

始良市の観光の現状に基づく、①市民活動、②観光資源、③情報発信・PR、④アクセス、⑤潜在的可能性の5つの視点における始良市の観光の強み、弱みを踏まえ、始良市の観光振興の課題を以下のとおり整理します。

課題① 市内全域にわたる多様な主体の連携が必要 <市民活動>

- ・ 始良市が目指す観光振興の方向性の明確化
- ・ 地域の枠を越えた活動の連携
- ・ 連携のための組織づくり、仕組みづくり
- ・ 活動をつなぎ、情報を集約するコーディネート機能の構築

課題② 資源をつなぐストーリーの構築が必要 <観光資源>

- ・ 各資源をつなぐ観光メニュー・プログラムづくり
- ・ 観光メニュー・プログラムの各地域の受け皿の確保
- ・ 歴史、文化、自然を活かした観光ルートの構築
- ・ ゾーニングの明確化

課題③ 情報の集約、発信戦略の共有が必要 <情報発信・PR>

- ・ 情報発信のターゲットの明確化
- ・ 情報の一元化、イメージ戦略の統一
- ・ 内発的な観光の仕掛け（住む人が地域のことを知り、好きになり、訪れる、その良さを市外の人に伝える、一人一人の言葉で語る）

課題④ 良好な広域アクセスを活かした展開が必要 <アクセス>

- ・ 鹿児島空港、鹿児島中央駅からの観光客の誘導、ツアープランづくり
- ・ 広域での観光プランの作成
- ・ 県内在住者をターゲットとした観光メニューづくり、PRの展開

課題⑤ 始良市の立ち位置の明確化が必要 <潜在的可能性>

- ・ 周辺市町村との差別化、始良市に来る目的の明確化
- ・ 宿泊施設の誘致及び周辺市町村の宿泊機能の活用
- ・ 桜島サービスエリアの有効活用（スマートインターチェンジの建設、情報発信の強化等）
- ・ 食の展開、コンベンション機能の強化



第3章 始良市の観光戦略

第3章 始良市の観光戦略

1. 始良市の観光の目指すべき姿

始良市では、本計画の上位計画である第1次始良市総合計画で掲げた基本理念「県央の良さを活かした、県内一くらしやすいまちづくり」に基づき、まちづくりを進めています。

「市民の暮らし」を一番に考えることは“まちづくり”の根幹であり、始良市のまちづくりをリードし、まちの価値を高め、市民の暮らしを豊かにしていくことが「観光」の役割です。そのため、市民が始良市に誇りと愛着を持って暮らし、市民一人一人の暮らしの中に観光によるまちづくりが息づくことこそが始良市の目指すべき観光と交流の姿であり、「まち」の真の魅力を伝えることにつながるといえます。

また、観光は、関連する産業の裾野が極めて広く、総合的戦略産業と言い得るものであり、限りなく多様な可能性を備えています。市内外はもとより、国外の多くの人々に対して始良市の観光をPRし、地域経済を力強くけん引する産業としての始良市観光の振興を目指すことが大切です。

さらに、始良市は、海岸部から山間部に至る多様で豊かな自然環境に加え、歴史や文化が市民生活の中に深く息づいており、観光資源となり得る素材は多彩です。特に文化財は県下一の指定数を誇り、重要な観光資源といえます。また、平成24年3月に誕生した霧島錦江湾国立公園に重富海岸をはじめとする始良カルデラ等が新たに指定されたことから、これらも重要な観光資源として保全と活用を図る必要があります。これらの豊富な観光資源を市民全体で守り育て、新たな観光の魅力として磨き上げることが、他の都市にはない始良市の個性を更に輝かせることになります。

以上の基本的考え方に基づき、「県内一くらしやすいまちづくり」の実現に向けて、市民の一人一人のおもてなしの心があふれ、各地域に存在するありのままの「あいら」の素材を光り輝かせる観光都市を市民と協働して創り上げていくことを目指し、本計画の基本理念を次のとおり掲げます。

基本理念

おもてなしの心あふれ、
“本物”が光るまちづくり
～ともに磨き、創ろう 光り輝く「あいら観光」の魅力～

※「本物」とは…始良市の各地域に既に存在するありのままの「あいら」の素材そのもののこと

2. 始良市の観光振興の基本方針

基本理念に基づき、以下の4つの基本方針を掲げます。

基本方針①

始良市の「宝物」を観て、体感してもらう

多様な素材に磨きをかけ、資源としての魅力向上に加え、歴史的なつながりやそれに基づくストーリーを活かし、市内に点在する資源をつなぐことにより、観光における付加価値を高めます。

「まち」
が
輝く

基本方針②

市民が活躍できる仕組み・場を創る

「人」に焦点を当て、活動者の多様な思いを共有する仕組みを創るとともに、市民一人一人が観光振興に参画できる場を創ります。

また、地域との連携を図り、認識を共有し、協働できる体制を創ります。

「人」
が
輝く

基本方針③

戦略的な情報提供と広域連携を行う

情報の一元化を図った上で、多様なツールや既存メディアを活用し、ターゲットに応じた情報発信を行います。

また、広域連携やテーマ別連携の際の始良市の立ち位置を明確にした上で、メニューづくりやPRを行います。

「情報」
が
輝く

基本方針④

観光関連事業者等の育成と連携を促す

始良市における観光関連事業者等の育成を図り、地域経済に波及効果をもたらすことができるよう連携を図ります。

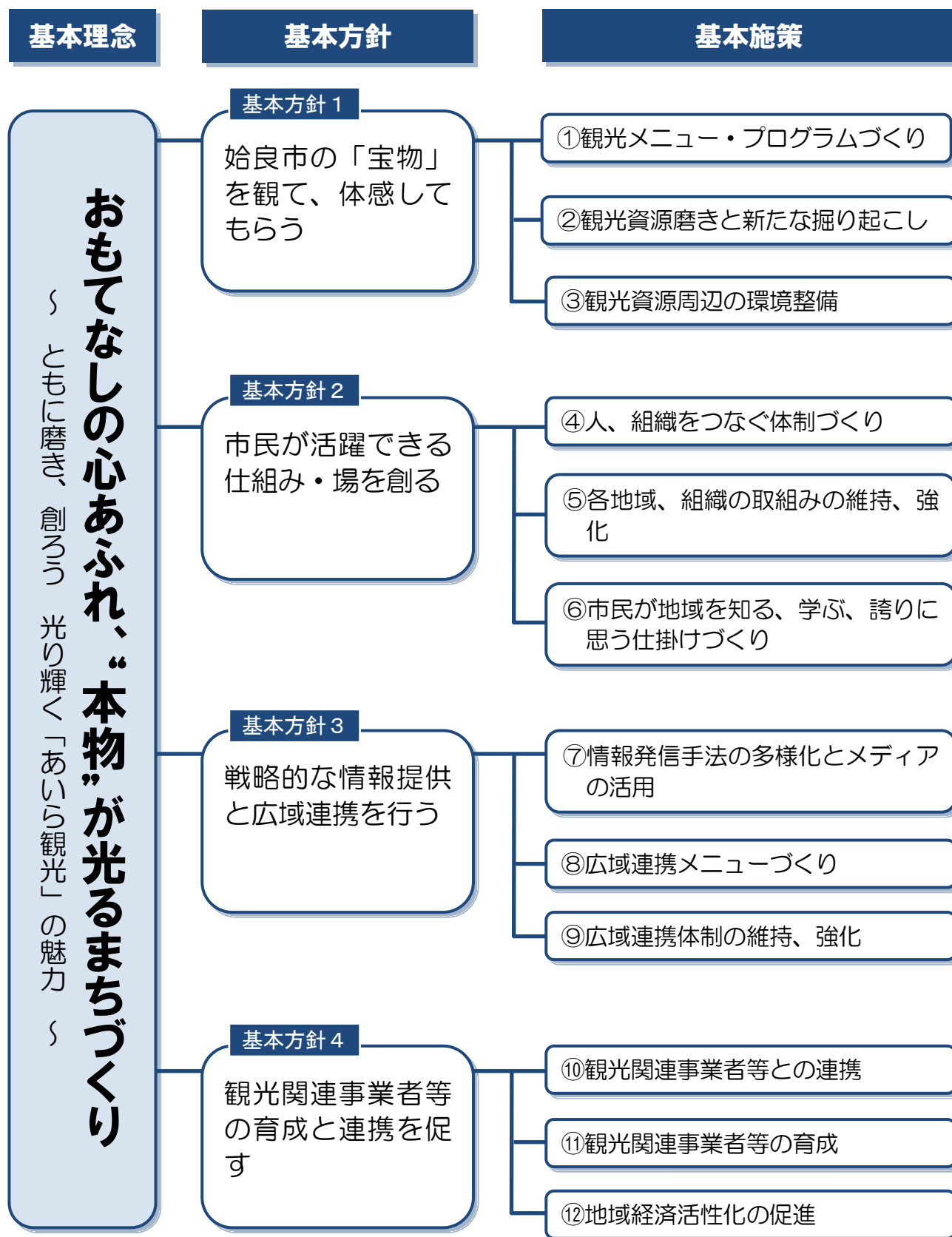
既存の支援事業についてはその効果を検証し、主体的、持続的な活動となるよう促進します。

「事業者」
が
輝く

始良市の観光振興

3. 始良市の観光振興を実現するための基本施策

4つの基本方針に位置付ける基本施策として、以下の12の施策を掲げます。



① 観光メニュー・プログラムづくり

■ 始良市の資源を活かした多様な観光メニューづくり

個別の観光資源をつなぐテーマ別のストーリーに基づき、始良市の「宝物」を観て、体感してもらう市域全体をつなぐメニュー、プログラム、観光ルートをつくり、周辺市町村との差別化を図ります。観光メニュー等の作成にあたっては、歴史・文化や自然体験等、始良市の観光資源を最大限活かす内容を検討するとともに、癒し体験やパワースポット巡り等、特定のターゲット層を想定した多様なメニューについても検討します。

また、古民家を活かした食事処やカフェ、焼き物や手芸品を販売する店舗等、市内に点在する魅力的なお店を整理し、それらを巡るプランづくりを行います。

さらに、五感を通した学びにつながる歴史、自然、地質資源等の素材を整理し、その素材を活用した体験学習メニューづくりを行うとともに、小・中・高校生の教育旅行の誘致やその受け皿の想定、対応マニュアルの作成を行います。

事業・取組み	実施時期		実施主体		
	前期	後期	行政	事業者	市民
市内をめぐる観光ルートの作成	●	●	◎		◎
歴史・自然等を活かした観光イベント (島津義弘公没後400年、伝統芸能等)の企画実施	●	●	◎	○	◎
自然体験メニュー(海、山、川、農業等)の開発	●	●	○		◎
癒し体験、パワースポット巡りのメニュー化	●	●	◎	○	◎
市内のお店巡りプランの企画	●	●	○	◎	
歴史、自然、地質資源等を活用した体験学習メニューづくり		●	◎	○	○
体験型観光における対応マニュアルの作成	●		◎		

※【実施時期】 前期：平成26～27年度（2か年） 後期：平成28～30年度（3か年）

【実施主体】 ◎：主体的に実施する ○：連携、支援などの立場でかかわる



▲カモコレの様子



▲古民家カフェ「ら・びゅー」

■ 始良市の資源を売り出す企画・プロジェクトの実施

あいらびゅ一号やあいらフットパス等の始良市に点在する多様な観光資源を活用した観光に関する各種企画について、今後も継続・強化し、新たな取組み企画や各地域への取組みへの波及など次なる展開を図るとともに、新たな観光イベント・取組みについても企画、実施します。

また、「食」に携わる市内の飲食店や事業者、団体等の多様な主体が連携する動きの継続、展開を図るとともに、始良市の「食」のブランド開発についても積極的に支援します。

事業・取組み	実施時期		実施主体		
	前期	後期	行政	事業者	市民
あいらフットパスの企画、実施、定着化	●	●	○	○	◎
あいらびゅ一号の継続、新たな取組みの企画	●	●	◎	○	
食のブランド開発プロジェクトの支援、育成	●	●	○	◎	
あいらん家 ^ち うまいもんプロジェクトの継続、新たな取組みの企画	●	●	○	◎	



▲あいらフットパスの様子



▲あいらびゅ一号



▲あいらん家^ちうまいもんフェスタの様子



▲あいらん家^ちまるごと博覧会の様子

② 観光資源磨きと新たな掘り起こし

■観光資源・施設の魅力づくり

各種文化財をはじめ、既存の観光資源を整理した上で、個別の資源を磨き、魅力を引き出すとともに、まだ光の当たっていない潜在的な資源にも焦点をあて、既存の資源と組み合わせた展開を図ります。

重富海岸をはじめとした海岸や周辺の山々、河川等、自然の中にある観光スポットにおいては、自然環境の保全を図り、その場所の魅力が損なわれないよう配慮し、国・県・市指定の有形文化財については優先順位を決め観光地としての整備を行います。

また、観光資源となる歴史的な建造物やまちなみの景観を保全するため、景観計画の策定や景観条例の制定による景観のルールづくり（建築物、工作物の高さ、色彩等の規制）、用途地域の見直しなどを行い、景観保全に必要な支援策を検討します。

事業・取組み	実施時期		実施主体		
	前期	後期	行政	事業者	市民
国、県、市指定の文化財の観光地としての整備	●	●	◎		○
民俗文化財の公開と活用	●	●	◎		◎
霧島錦江湾国立公園（重富海岸等）の保全と活用	●	●	◎		◎
市内に点在する温泉の活用	●	●	◎	○	○
観光スポットとなる自然の保全	●	●	◎		◎
歴史的な建造物やまちなみの景観の保全	●	●	◎		◎



▲重富海岸



▲龍門司坂



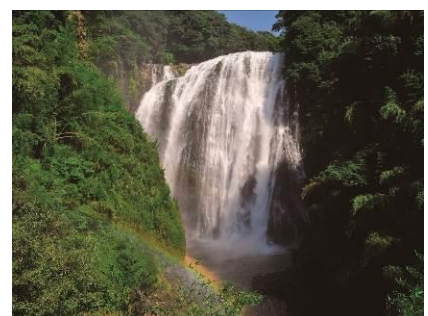
▲白銀坂



▲山田凱旋門



▲武家門通り



▲龍門滝

■季節感とおもてなしの心があふれる場所・環境づくり

各地域において、あじさいや桜、梅等の季節の花々の植栽を促進することにより、その場所で季節の彩りを感じられるような面的な景観づくりを行います。面的な景観づくりは、計画的かつ長期的な視点で地域が主体となってじっくり進めることにより、市民一人一人の思いがこもった美しい景観づくりとして展開を図ります。

始良市を通過するＪＲの観光列車（ななつ星、はやとの風）の沿線及び駅においては、その魅力づくりの一環として花植えを市民との協働で行い、列車の車窓からの始良市の魅力を最大限に伝える仕掛けを行います。また、魅力づくりと合わせて、各駅におけるＰＲ看板・横断幕の設置などを行うことにより、始良市の存在をＰＲし、始良市への観光誘導を図ります。

事業・取組み	実施時期		実施主体		
	前期	後期	行政	事業者	市民
季節の花々の植栽による面的な景観づくり	●	●	○	○	◎
ＪＲの観光列車（ななつ星、はやとの風）の沿線、駅の魅力づくり、ＰＲ看板等の設置の検討	●	●	◎	○	◎

■新たな観光素材の掘り起こし

観光における重要な要素である「食」（特産品、スイーツ、郷土料理、Ｂ級グルメ等）について、始良市の素材を掘り起こし、整理するとともに、始良市の食材を使った特産品やお土産、食事メニュー（料理、スイーツ）等を開発し、始良市の魅力として売り出します。

また、現在、民間主導で進められているエコツーリズムやグリーンツーリズム、蒲生地域で取り組んでいる「カモコレ」等の既存のニューツーリズム・着地型観光の取組みを今後も維持できるように支援するとともに、新たな観光素材の掘り起こし・活用や健康・美容要素との組み合わせなどによる魅力あるメニューの創出や他地域への取組みの拡大を図ります。

事業・取組み	実施時期		実施主体		
	前期	後期	行政	事業者	市民
始良市の「食」（特産品、スイーツ、郷土料理、Ｂ級グルメ等）の掘り起こしと開発	●	●	○	◎	
ニューツーリズム・着地型観光の維持・強化、新たな素材の活用、メニューの創出		●	◎	○	◎



▲あいらアゴ肉焼き



▲加治木饅頭



▲かもう紅茶

③ 観光資源周辺の環境整備

■観光拠点施設の整備

観光資源のPRや特産品の販売、体験メニューの窓口や情報発信基地となる拠点施設を地域ごとに設定し、その拠点機能を強化します。拠点機能の強化にあたっては、同様の機能をもつ他地域の施設の状況、位置関係を踏まえた上で、相互の連携策や各施設の運営方策等について併せて検討します。

観光施設や店舗の新設の際には、バリアフリー化や子どもへの対応など、利用者のニーズに応じた施設整備や周辺の景観への配慮を促進するとともに、既存の観光施設や店舗とのつながりを生み出す仕組みづくりを行います。既存の観光施設や飲食店等の設備改修にあたっては、バリアフリー化や子ども目線の施設整備などの支援について検討します。

また、桜島サービスエリアを車での立ち寄り観光の拠点として、加治木港をクルーズ等の海上観光の拠点として、今後の活用可能性について検討します。

さらに、総合運動公園や加音ホール等の既存施設を活かし、各種スポーツ大会や合宿・コンベンション等の誘致を促進します。

事業・取組み	実施時期		実施主体		
	前期	後期	行政	事業者	市民
地域の中心となる観光施設の拠点機能の強化	●	●	◎	○	○
観光資源等におけるバリアフリー化や子ども目線の施設整備の推進		●	○	◎	
桜島サービスエリアや加治木港の観光拠点としての活用可能性の検討		●	◎	◎	



▲蒲生観光交流センター



▲加音ホール



▲龍門滝温泉



▲JR 帖佐駅



▲桜島サービスエリア



▲加治木港

■魅力ある観光地形成のための周辺施設整備

観光資源を誰もが訪れやすい場所にするため、現在の状況を把握した上で、観光資源周辺のトイレや駐車場、歩道の整備、バリアフリー化について検討します。

観光資源間を結ぶアクセス道路に関しては、観光動線となる道路の整備・改修や案内・誘導サインの設置などを行い、わかりやすく、安全な観光を実現するための整備を行うとともに、魅力ある道中を演出するための景観配慮を行います。

案内サインについては、色彩やロゴ等のデザインの統一を図るとともに、全体として外国語表示を徹底するなど、海外からの来訪客にも対応したサインデザインを行います。

事業・取組み	実施時期		実施主体		
	前期	後期	行政	事業者	市民
案内サイン（全体案内板、観光資源の個別案内板、誘導看板等）の整備	●	●	◎		
観光動線となる道路の整備	●	●	◎		
観光資源周辺における遊歩道、トイレ、駐車場等の整備、バリアフリー化の推進	●	●	◎		

④ 人、組織をつなぐ体制づくり

始良市の観光に関する活動が横でつながるための組織を構築し、市内の観光にかかわる人、組織のネットワーク化を図るとともに、市内の活動主体間で情報を共有する仕組みやそれぞれの取り組み状況、取り組みにおける悩み等の話ができる機会を設けるなど、活動連携のきっかけとなる仕掛けを行います。

また、市内の観光ガイド組織については、旧3町にそれぞれ存在することから、組織間の交流や連携が生まれる場づくりを行うとともに、観光ガイドの受付窓口を一本化するなど、来訪者と観光ガイドを結びつける体制の強化を図ります。

さらに、始良市は、年間のイベントの回数が多く、企画、実施時においては多様な主体がかかわることから、今後も継続するために連携体制づくりを強化します。

事業・取組み	実施時期		実施主体		
	前期	後期	行政	事業者	市民
市内の観光に関わる多様な主体によるネットワークの構築		●	◎	○	○
観光関係団体の主体的活動の促進	●	●	○		◎
各主体の活動情報を共有する仕組みの構築		●	◎	○	○
各主体が意見交換する活動連携ワークショップの開催	●		◎	○	○
観光ガイド組織の連携体制の構築、受付窓口の一本化		●	◎		◎

⑤ 各地域、組織の取組みの維持、強化

■ 始良市の観光振興を担う人材の確保・育成

始良市の今後の観光振興を担う人材を確保、育成するため、現在の活動者が今後もさらにスキルアップできるようなプログラムを作成するとともに、地域の祭りやイベント、郷土芸能の後継者や始良市の「食」を支える担い手等の育成を推進し、これからの始良市の観光資源を維持、強化するために必要な人材を確保します。観光ガイドについては、ガイドに必要な知識や技能について学ぶ場を設け、その育成のための仕組みづくりを行います。

また、始良市民もしくは始良市在勤者が市の観光PRや各種行事に1年間参加、協力する「あいら観光大使」の募集を今後も継続することにより、始良市の知名度向上やイメージアップの顔となる人材を確保、育成します。

さらに、始良市の観光行政を担う市役所職員一人一人の観光に対する意識を向上させるとともに、横断的に観光振興に取り組む体制づくりを行います。

事業・取組み	実施時期		実施主体		
	前期	後期	行政	事業者	市民
活動者のスキルアップ講座の開催	●	●	○	◎	◎
地域の祭り・イベント、郷土芸能の継承（無形民俗文化財の保存会への助成、後継者の育成など）	●	●	○		◎
観光ガイド養成講座の開催	●	●	○		◎
横断的な観光行政の体制づくり	●	●	◎		



▲観光ガイドの様子



▲くも合戦



▲蒲生郷夏祭り



▲山田の里かかし祭り



▲棒踊り



▲太鼓踊り

■各地域の体制強化と魅力の向上

各地域で取り組まれている観光振興に寄与する様々な市民活動を今後も維持できるように支援するとともに、市民が主体となった活動にさらに取り組みやすくなるように、市民と行政の協働体制を強化します。

また、鹿児島市、霧島市等の周辺観光地を訪れた観光客が始良市を通過している現状を踏まえ、始良市に立ち寄ってもらうために、その受け皿となるモデル地域を設定し、短い時間の立ち寄りでも満足して過ごすことができるプランづくりを行います。モデル地域においては、各地域、組織で実践している取組みをベースに観光メニュー・プログラムの受け皿を確保し、地域で来訪者を受け入れる体制づくりを行います。

さらに、市民一人一人が自分の居宅周辺等をきれいにするとともに、地域が一体となって魅力ある景観づくりに取り組みます。

事業・取組み	実施時期		実施主体		
	前期	後期	行政	事業者	市民
観光振興に寄与する市民活動の支援、市民と行政の協働体制の強化	●	●	◎		◎
観光誘導エリア（モデル地域）の設定	●		◎		◎
自治会ごとの清掃、植栽、花植え等による観光資源周辺のきれいな景観づくりの促進	●	●	○	◎	◎



▲徳重邸の芝桜



▲重富海岸の清掃の様子

⑥ 市民が地域を知る、学ぶ、誇りに思う仕掛けづくり

■市民が始良市のことを学ぶ機会の創出

市民自らが始良市の良さを認識し、それを自らの言葉で語ることができるようにするため、始良市で開催されるイベント等への市民の参加を促すとともに、市民向けの学習会や写真コンテスト、バスツアーを開催するなど、市民の誰もが始良市のことを学ぶ機会や始良市の魅力を市民自らが再発見するための機会を企画、提供します。

また、始良市に住む子どもに対しては、子どもの頃から始良市のことを学ぶことができるように、学校のカリキュラムの中に観光の視点を取り入れるなど、教育の一環として始良市のことを知り、誇りを醸成する機会を設けます。

さらに、始良市の観光についての認識の向上を目指し、始良市の観光振興の目指すべき姿や今後取り組むべきこと等について市民とともに語り合う機会を設けます。

事業・取組み	実施時期		実施主体		
	前期	後期	行政	事業者	市民
始良市の歴史、文化、自然等について学ぶ場としての「あいら学習会」の開催（あいら検定）	●	●	◎	○	○
子どもが始良市のことを学ぶことができる教育プログラムの開発、実践		●	◎	○	○
始良市の魅力を伝える写真コンテストの開催	●	●	◎	○	○
始良市の観光を考える市民ワークショップの開催	●	●	◎	○	○



▲始良市まちづくりフォーラムの様子



▲始良市の観光を考えるワークショップの様子

■市民主体のおもてなしの促進

始良市の各コミュニティ協議会（検討中）やNPO等が主体となった市民参画組織を構築し、各地域に存在する観光資源の管理を地域主体で行う仕組みづくりを推進します。

また、市民一人一人がおもてなしの心で来訪者を迎えることができるように、おもてなしのすそ野を市民全体に広げる取り組みを行います。

来訪者にあいさつをすることや観光列車に手を振ることなどの市民全員で気軽に取り組むことができるおもてなし運動については、その実践を促進するとともに、必要な支援を行います。

事業・取り組み	実施時期		実施主体		
	前期	後期	行政	事業者	市民
観光資源管理のための市民参画組織の構築	●	●	◎		◎
おもてなし講習会の開催	●	●	◎	○	○
来訪者へのあいさつ運動の実施	●	●	○	◎	◎
観光バスや観光列車（ななつ星、はやとの風）に市民が手を振る取り組みの企画、実施	●	●	○	○	◎



▲鹿児島空港でのおもてなし運動の様子



▲始良市内を通過するクルーズトレインななつ星

⑦ 情報発信手法の多様化とメディアの活用

■情報発信・共有の仕組みづくり

観光情報の提供は、観光WEBサイトやパンフレット・マップ等の紙媒体をはじめ、既存の情報発信手法を精査した上で、統一的な情報発信、多様なツールの活用について検討を行うとともに、観光資源の情報をそのまま発信するのではなく、各資源の魅力を最大限に伝え、来訪意欲に結びつくような情報発信の方策について検討します。

また、観光WEBサイトにおいては、観光協会のホームページを中心に強化を図るとともに、今後リニューアルを予定している始良市のホームページとの情報共有や市内の観光施設や店舗のホームページ等の観光関連サイトとのリンクなど、市外から始良市の観光情報につながりやすい環境を整えることにより、市全体としての情報発信力を強化します。WEBでの情報発信では、リアルタイムの発信が求められているため、既存ツールの活用に加え、SNS等の活用による情報発信体制の強化を図ります。

さらに、市内の観光資源の個別情報を整理し、データベース化を図るとともに、観光施設・事業者間の各種情報を共有する仕組みをつくり、イベント情報や観光メニュー・プログラムの情報等の市内の観光情報を一元化し、観光情報の発信に反映させます。

事業・取組み	実施時期		実施主体		
	前期	後期	行政	事業者	市民
始良市の観光WEBサイトの強化、情報の一元化	●	●	◎	○	○
始良市のホームページのリニューアル	●		◎		
観光資源のデータベース化、紙媒体の整理	●	●	◎	○	○
SNS等の活用によるリアルタイムに情報発信できる仕組みの構築	●	●	◎	○	○
観光施設・事業者間の情報共有の仕組みの構築	●		◎	○	



▲始良市観光協会ホームページ



▲あいらびゅー号 facebook ページ



▲始良市観光ガイドブック

■市内外における観光案内の強化

始良市の観光案内については、情報窓口を一本化し、来訪者からの問い合わせ先を明確にするとともに、情報窓口スタッフの確保・育成を図ります。

また、ＪＲ各駅や桜島サービスエリア、主要な観光ポイント等において、観光案内の強化を行い、鹿児島中央駅や鹿児島空港等の市外の施設においても積極的に本市の観光ＰＲを行います。

さらに、多様な観光ニーズに対応するため、教育旅行用の案内、食事処の案内、公共交通の案内等の細分化した各種案内資料についても作成を検討します。

事業・取組み	実施時期		実施主体		
	前期	後期	行政	事業者	市民
情報窓口としての観光協会の機能強化とスタッフの確保・育成		●	◎		◎
市内の主要施設（ＪＲ各駅、桜島サービスエリア等）における観光案内の強化	●	●	◎	◎	
市外の主要施設（鹿児島中央駅、鹿児島空港、九州自動車道サービスエリア等）における観光ＰＲの強化	●	●	◎		
食事処の情報発信の強化（お食事処マップ、ＨＰの作成など）	●	●	○	◎	
公共交通の案内強化（鉄道、バスの時刻、ルート等）	●	●	○	◎	
教育旅行用の手引きや小・中学生でもわかる解説書の作成		●	◎		

■メディアの活用による始良市のＰＲ

始良市のことを全国的に売り出すキーワードや始良市の観光価値を高め、ブランド化につながる要素を明確にし、観光の種別、ターゲットに応じたＰＲ戦略づくりを行います。

始良市のＰＲにあたっては、公用車や民間の交通機関の車体・機体にＰＲラッピングを行うなどの発信媒体としての活用、イベントの情報発信等におけるテレビや新聞、ラジオ等の既存メディアの活用について検討し、始良市の情報が多くの人の目に触れる仕掛けを行います。

また、全国の旅行雑誌や旅行会社、鹿児島県内の情報誌等へ新たな観光メニュー・プログラムを売り込み、始良市が県内外の人の観光の目的地として候補にあがるように情報発信を行います。

さらに、始良市の魅力を伝えるＰＲ動画を作成して発信するとともに、映画、テレビ番組、ＣＭ等の撮影場所としての誘致を促進し、全国的に始良市のことをＰＲします。

事業・取組み	実施時期		実施主体		
	前期	後期	行政	事業者	市民
公用車や民間の交通機関（航空機、ＪＲ、バス、タクシー等）の発信媒体としての活用（車体・機体へのラッピング）	●	●	◎	◎	
イベント情報の効果的な発信	●	●	◎		
全国の旅行雑誌、旅行会社、鹿児島県内の情報誌等への売り込み強化	●	●	◎		
ＰＲ動画の作成		●	◎	○	○

⑧ 広域連携メニューづくり

霧島錦江湾国立公園や桜島・錦江湾ジオパーク（平成25年9月に日本ジオパークネットワークに加盟）との連携を図り、錦江湾全体でのツアーを企画するなど、周辺市町を含めた観光圏域の中で観光メニューを企画、実施します。

観光メニューの企画の際は、鹿児島中央駅や鹿児島空港を起点とした観光プランをつくるなど、県央に位置する立地特性を活かした取組み展開を図ります。

また、蒲生の大クスや島津義弘公等の歴史等の観光資源をテーマでくくり、市外の関連する資源と連携を図ることにより、共同PRやメニューづくりを行います。

事業・取組み	実施時期		実施主体		
	前期	後期	行政	事業者	市民
錦江湾まるごと体験（国立公園、ジオパーク等）の企画、実施	●	●	◎	○	○
九州巨木物語連携の強化（熊本市、武雄市、姶良市）	●	●	◎		○
鹿児島中央駅や鹿児島空港を起点とした観光ツアーの企画、実施		●	◎	○	



▲錦江湾（姶良カルデラ）



▲蒲生の大クス



▲精矛神社

⑨ 広域連携体制の維持、強化

姶良・伊佐地域観光連絡協議会、錦江湾奥会議等の広域連携体制を維持するとともに、広域での情報の共有化や情報発信体制の強化を図ります。

また、鹿児島県観光連盟等の関係機関・団体との連携を強化し、鹿児島県全体としてPRする上での姶良市の位置づけについて、他の自治体との差別化を図ります。

事業・取組み	実施時期		実施主体		
	前期	後期	行政	事業者	市民
周辺市町との広域連携体制の強化（姶良・伊佐地域観光連絡協議会、錦江湾奥会議等）	●	●	◎		
広域連携情報の集約、発信	●	●	◎		
鹿児島県観光連盟等の関係機関・団体との連携強化	●	●	◎		

⑩

観光関連事業者等との連携

観光協会や特産品協会、商工会等の観光関係団体が主体となった観光メニューづくりやイベントの企画、実施を促進し、その活動を積極的に支援するとともに、企画、実施の際には、発信力のある企業との連携・タイアップについても併せて検討します。

観光協会においては、市内の観光関係団体の活動をつなぎ、情報を集約するコーディネート機能の役割を今後担えるよう体制強化を図ります。

また、始良市の観光振興において欠かせない民間の交通事業者（ＪＲ、バス、タクシー等）との連携の強化を図るため、協議の場や情報共有の仕組みづくりを行うとともに、駅からのウォーキングツアー等の公共交通機関と連携したツアーやサービスの企画、実施を行います。

事業・取組み	実施時期		実施主体		
	前期	後期	行政	事業者	市民
観光協会や特産品協会、商工会等の観光関係団体の自立的活動の促進	●	●	○	◎	
企業との連携（ウォーキングイベントでのＪＲやスポーツメーカーとのタイアップ等）	●	●	◎	◎	○
民間の交通機関（ＪＲ、バス、タクシー等）と連携したツアー企画、実施	●	●	◎	◎	○

⑪

観光関連事業者等の育成

始良市内の食材を使った特産品やお土産、食事メニュー（料理、スイーツ）等を開発するグループや福祉施設、それを販売・提供する店舗への支援や共同ＰＲを行うとともに、始良市の観光の魅力を高める地域産業やものづくりの育成を図ります。

また、市内の観光関連事業従事者が観光について学ぶ場を設け、観光関連事業者のおもてなし意識や接遇、マナー等のスキルの底上げを図ります。

さらに、観光施設を維持、管理している指定管理者等に関しては、地域のまちづくりの拠点施設として魅力的な施設となるように、スタッフの意識の向上と運営面の改善・強化、施設間の連携・情報共有を図ります。

事業・取組み	実施時期		実施主体		
	前期	後期	行政	事業者	市民
始良市の特産品、お土産等を販売する店舗の育成	●	●	○	◎	
始良市の特産品や食の開発のための担い手の確保、育成のための支援	●	●	○	◎	
観光の魅力を高める地域産業・ものづくりの育成	●	●	○	◎	
観光関連事業従事者のおもてなし講座の開催	●	●	○	◎	
観光施設管理者（指定管理者等）の意識啓発、施設の運営強化	●	●	○	◎	

⑫ 地域経済活性化の促進

始良市内の宿泊施設や店舗において、地域人材の雇用や地域の食材利用を促進し、地域内で経済が循環するまちづくりを目指します。

また、生産者と加工業者、販売店舗、飲食店との接点をつくり、双方のつながりを強化することにより、始良市の農産物等を使った加工品や有機栽培の農産品を市内で気軽に購入もしくは食すことのできる店舗を拡大し、そのPRを強化するとともに、始良市の特産品開発や農産品のブランド化を促進し、市内生産者の所得の向上を目指します。イベントの開催の際にも、始良市の食材や郷土料理等の観光資源を前面に掲げ、その良さ、魅力をPRすることにより、イベントを重ねるごとに始良市のファンが増えていくような仕掛けを行います。

観光拠点の一つである物産館については、蒲生物産館「くすくす館」において駐車場や体験型観光を取り入れた加工施設を整備するなど、売り上げ向上を念頭に、施設の充実、運営の強化を図ります。新たに整備する予定の始良市物産館についても、新たな地域活性化と観光交流拠点として、その整備を着実に推進するとともに、運営手法、ソフト施策と両輪でそのあり方の検討を進めます。

宿泊施設に関しては、既存施設の活用、PRを行うとともに、始良市旅館・ホテル施設誘致促進条例に基づき、積極的な誘致を図ります。

さらに、「カモコレ」の取組み等の着地型の観光メニューを提供することによって、交流人口を増やし、地域全体として収入が向上する仕組みづくりを検討します。

事業・取組み	実施時期		実施主体		
	前期	後期	行政	事業者	市民
始良市の特産品の開発（6次産業化の推進）	●	●	○	◎	
有機栽培の農産品及び農家のPR、ブランド化	●	●	○	◎	
あいらブランドのロゴマークの制作、運用	●		◎	○	
既存の物産館の充実、強化	●	●	◎		○
始良市物産館の整備	●	●	◎		○
生産者と加工業者、販売店舗、飲食店との接点をつくる異業種交流会の開催	●	●	○	◎	
旅館・ホテル等の宿泊施設の積極的な誘致	●	●	◎	◎	
既存の宿泊施設の活用促進	●	●	○	◎	
「カモコレ」の取組み継続（新たなメニューの開発、持続可能な財源の確保など）	●	●	○	◎	◎



▲蒲生物産館くすくす館



▲ふれあい物産館



▲フォンタナの丘かも

4. 始良市の観光振興の重点プロジェクト

始良市の観光振興の基本理念として、「おもてなしの心あふれ、“本物”が光るまちづくり」を掲げ、これを具現化するために4つの基本方針を定めました。

これを受けた形で、基本方針の実現に向けた12の施策を示し、項目ごとの具体的な取り組み等を定めていますが、その中でも特に、「市民主体のおもてなしの仕組みづくり」「多様な観光メニューづくり」「観光拠点施設づくり」という3つの視点から、各施策分野を越えて今後5か年で重点的に実施する事業を、重点プロジェクトとして位置づけました。

これらの重点プロジェクトを行政内の各部署、関係機関が連携して横断的に取り組むとともに、市民との協働で取り組むことにより、始良市に存在するありのままの素材を磨き上げ、基本理念である「おもてなしの心あふれ、“本物”が光るまちづくり」を推進していきます。

重点プロジェクト

重点1

市民主体のおもてなしの仕組みづくり

今後5か年の実施事業

- 「あいら学習会」の開催（あいら検定）
- 観光ガイド育成講座の開催
- 観光資源周辺のきれいな景観づくりの促進
- おもてなし講習会の開催
- 来訪者へのあいさつ運動の実施
- 観光バスや観光列車に市民が手を振る取り組みの企画、実施
- 観光協会の機能強化
- 観光関係団体への支援
- 特産品協会等による特産品開発、PRの促進
- 地産地消推進店の協力店舗拡大
- 観光の魅力を高める地域産業・ものづくりの育成

重点2

多様な観光メニューづくり

- 市制5周年記念事業
- 国民文化祭関連事業の実施
- 島津義弘公没後400年事業の実施
- 多彩なフットパス・ウォーキング・サイクリングコースの設定
- エコツーリズム・グリーンツーリズムの促進
- スポーツツーリズムの促進
- 新たな観光資源の掘り起こしによるメニューづくり
- 新たな周遊観光バスの運行
- 既存の宿泊施設と連携した宿泊プランづくり
- ジャンル別グルメ店舗ガイドの発行
- 始良市の魅力を伝える写真コンテストの開催

重点3

観光拠点施設づくり

- 重富海岸の整備
- 掛橋坂駐車場等の整備
- 蒲生城登山路の整備
- 平松城石堀の整備
- 花園寺跡の整備
- 森山家の整備
- ふれあいパークの整備
- 蒲生物産館「くすくす館」駐車場の整備
- 始良市物産館の整備

重点 1 市民主体のおもてなしの仕組みづくり

◆プロジェクトの内容

始良市のまちづくりの根幹は「市民の暮らし」であり、市民一人一人の暮らしの中に観光まちづくりが息づくことが重要です。そのためには、市民一人一人が始良市に誇りをもって暮らすとともに、市民一人一人が始良市のことを知り、それを伝えることにより、自然体で無意識におもてなし行動を実行することが大切です。

また、漆地域や北山地域をはじめとした中山間地域において実施されている交流事業や白銀坂や白銀の滝、龍門司坂等における清掃活動等の地域をあげてのおもてなし活動も盛んに行われており、地に足の着いた身の丈にあった取組みの積み重ねが結果として観光振興につながります。

しかしながら、市全体としておもてなし意識やその方策を共有しているわけではなく、必ずしも観光の振興を図るという考えで行われているものではありません。また、始良市の流入人口の増加に伴い、始良市のことを知らない市民が増えている上、市民の誰もが気軽に始良市の歴史、文化、自然の成り立ちについて学ぶ機会が十分でない状況もみられます。

これらの現状を踏まえ、重点プロジェクトとして、市民主体のおもてなしの仕組みづくりを掲げ、「①始良市のことを学ぶ場づくり」「②おもてなしのすそ野の拡大」「③観光関連事業者・団体の強化」の3つの視点で取り組みます。

① 始良市のことを学ぶ場づくり

始良市の魅力を自らの言葉で語ることができる始良市民を一人でも多く育てるため、市民の誰もが自らの興味に応じて、歴史、文化、地質、植生等の始良市のことを深く掘り下げて学ぶことができる機会をつくります。始良市は観光ボランティアをはじめ始良市のことを語ることができる人材が非常に豊富であり、教える側と学ぶ側のマッチングを行い、持続的に学び合える仕組みをつくります。また、そのような場での気づきを通して、地域住民にとっての地域への誇りや思いを明確にします。

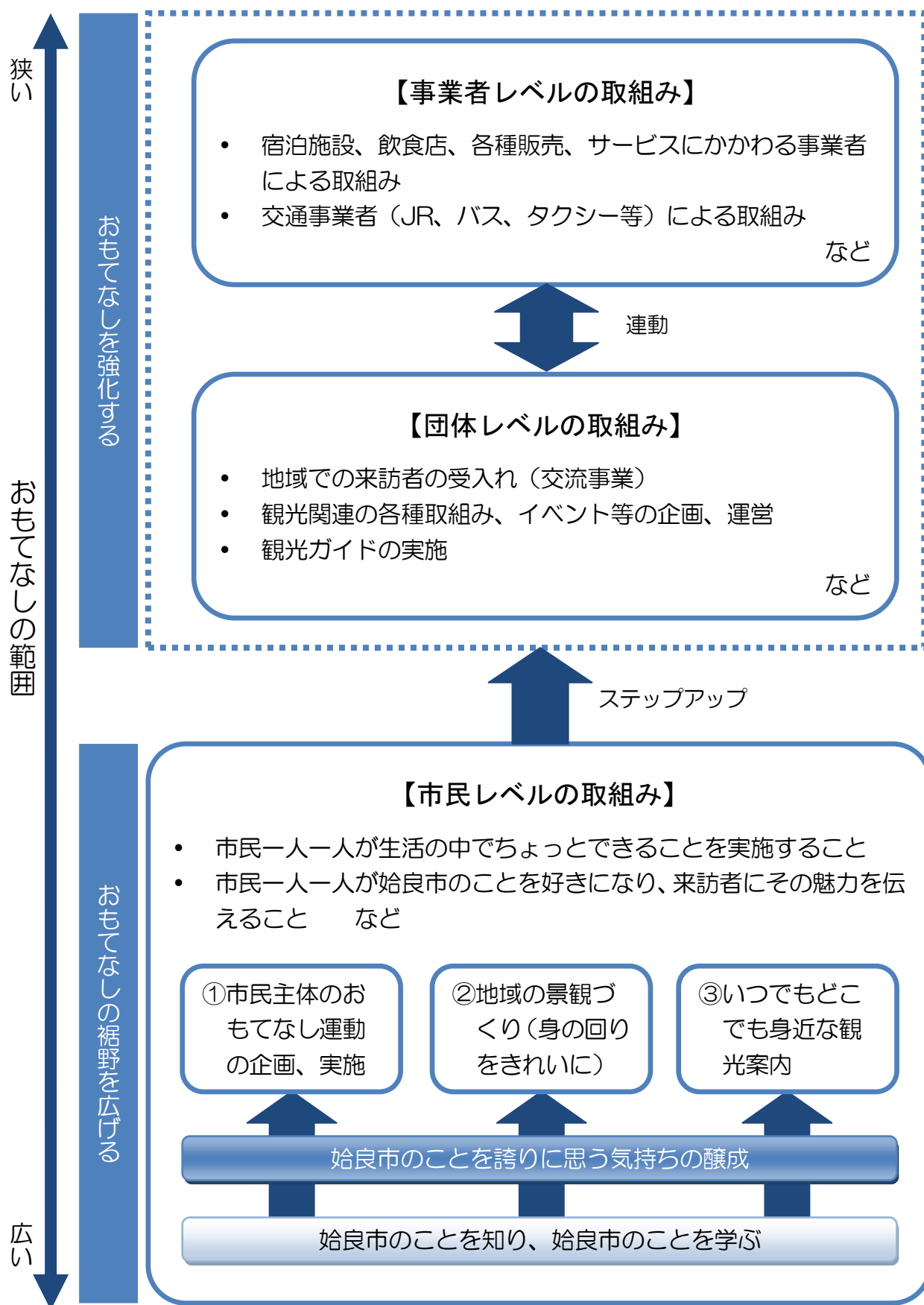
② おもてなしのすそ野の拡大

観光資源周辺の清掃や花植え、交流事業等の地域ごとのおもてなし活動を継続するとともに、市民の誰もが気軽にすぐにでも参加できる、おもてなしの取組みを企画、実施し、地域ごとの個別の取組みを積み重ねることにより、市全体としてのおもてなしの機運を高めます。市民が主体となるおもてなし運動については、市が支援する仕組みづくりを行います。また、市内で献身的に取組みを進めている人、団体、地域、事業者に光を当て、「人」の魅力を始良市の魅力として発信・PRします。

③ 観光関連事業者・団体の強化

観光協会が始良市の観光の窓口機能を担い、自主事業を実施することができるようその位置づけを強化するとともに、始良市の観光振興に寄与する団体や事業者の自立的な活動を促進し、持続的に活動が続けられるよう支援します。また、始良市の食材を取り扱う飲食店の拡大を図るとともに、始良市の観光の付加価値を高める地域産業・ものづくりの維持、発展を図り、始良市の「食」や特産品等の開発、販売を促進します。

■市民主体のおもてなしの仕組みのイメージ



◆今後5か年の事業内容

事業名	事業概要	担当部署
「あいら学習会」の開催(あいら検定)	始良市の歴史、文化、自然等を学ぶことができる「あいら学習会」を開催する。将来的には、「あいら検定」への展開を図り、始良市の情報を網羅したテキストの作成や検定試験を実施する。	商工観光課 社会教育課
観光ガイド育成講座の開催	ボランティアガイド団体の新たな人材を確保するとともに、既存のガイド人材のガイド知識や安全・安心等の現場対応力を身につけるため、観光ガイド養成講座を開催し、プロガイド育成の下地をつくる。	商工観光課
観光資源周辺のきれいな景観づくりの促進	自治会ごとの清掃、植栽、花植え等の市民主体の観光地周辺や歴史的まちなみの景観づくりを促進する。 また、市全体の良好な景観の保護、形成のため、景観計画の策定や景観条例の制定による景観のルールづくり(建築物、工作物の高さ、色彩等の規制)、用途地域の見直しなどを行う。	都市計画課 地域政策課 生活環境課 林務水産課
おもてなし講習会の開催	始良市の観光関係事業者であるタクシー乗務員や各種店舗経営者・従業員に加え、一般市民も参加できる多様な主体を対象とした「おもてなし講習会」を開催する。カリキュラムは、それぞれの立場に応じたおもてなしのあり方を学べるものとする。	商工観光課
来訪者へのあいさつ運動の実施	日常的にあいさつを交わす習慣づけを行うとともに、来訪者に対しても皆があいさつをする運動へと展開を図り、市全体でおもてなしをする機運を高める。	商工観光課 社会教育課
観光バスや観光列車に市民が手を振る取組みの企画、実施	観光バスや観光列車に手を振るように、市民全体に呼びかける。観光列車については、ななつ星、はやとの風等の通過時間に合わせて駅等に集まり、参加者全員で手を振るイベントの企画、実施を促進する。	商工観光課 社会教育課
観光協会の機能強化	始良市の観光振興を図るための自主企画の実施に加え、観光の窓口機能を担い、企画・立案を行うための観光協会スタッフを確保するとともに、組織・機能の見直しを行う。	商工観光課
観光関係団体への支援	始良市の観光振興に寄与する団体が主体的に実施する活動を今後も自立的に継続、強化できるように支援する。	商工観光課
特産品協会等による特産品開発、PRの促進	地元農産物等を活用した特産品の開発を行うとともに、特産品協会が実施する「始良市物産展」や4つの農産加工グループが開催する「あいら農産加工まつり」等の取組みの継続、強化を図る。	商工観光課 農 政 課
地産地消推進店の協力店舗拡大	始良市の有機農産物を食材として取り扱う飲食店を地産地消推進協力店として登録を行い、食材の流通体制の整備によって安定供給を確保することができるよう、協力店舗の拡大を図り、消費者に対して地産地消をPRする。	商工観光課 農 政 課
観光の魅力を高める地域産業・ものづくりの育成	蒲生和紙、蒲生紅茶、帖佐人形、龍門司焼等の始良市の地域産業・ものづくりを今後も引き継いでいけるように、技術の伝承や後継者の育成について支援する。	商工観光課 社会教育課

◆スケジュール

具体的取組み	H26	H27	H28	H29	H30
「あいら学習会」の開催（あいら検定）	企画実施		継続実施 あいら検定の仕組みの検討 テキスト作成		検定試験の実施
観光ガイド育成講座の開催		企画実施	継続実施		
観光資源周辺のきれいな景観づくりの促進		自治会ごとの清掃、植栽、花植え等の継続実施 景観計画策定 用途地域見直し	景観条例制定		
おもてなし講習会の開催	企画実施		継続実施		
来訪者へのあいさつ運動の実施	企画実施		継続実施		
観光バスや観光列車に市民が手を振る取組みの企画、実施	企画実施		継続実施		
観光協会の機能強化	先進地調査	自立的活動の促進、支援			
観光関係団体への支援	先進地調査	自立的活動の促進、支援			
特産品協会等による特産品開発、PRの促進		自立的活動の促進、支援			
地産地消推進店の協力店舗拡大		地産地消推進協力店の拡大、PR			
観光の魅力を高める地域産業・ものづくりの育成		地域産業・ものづくりの技術伝承・後継者育成			

重点2 多様な観光メニューづくり

◆プロジェクトの内容

始良市は、海、山、川、田園等の自然環境に恵まれ、歴史・文化も息づいていることから、その資源の見せ方、つなぎ方によっては様々なストーリーが考えられます。しかし、資源は豊富ではあるものの、単体で観光の目的地となるような場所とはなっておらず、各地域の受け皿も十分でないのが現状です。そのため、現在の受け皿で対応できるターゲットの想定を行い、各地域の資源の積み上げによる始良市の身の丈にあった観光メニュー、プログラムづくりを検討することが大切です。また、鹿児島中央駅や鹿児島空港から近く、市内にJRの駅や桜島サービスエリアが立地しているという観光における地理的優位性があるため、その強みを活かした取組みの展開が考えられます。

これらの現状を踏まえ、重点プロジェクトとして、多様な観光メニューづくりを掲げ、「①ターゲットを踏まえた観光メニューづくり」「②始良市の魅力を再発見できる記念イベントの企画」「③豊富な観光資源や地理的特性を活かした観光ルート・コースの設定」の3つの視点で取り組みます。

① ターゲットを踏まえた観光メニューづくり

観光メニューを検討する際にはターゲットの想定が必要であり、多くの来訪者が訪れる観光地ではない始良市の現状を踏まえると、すぐに全国的な観光地を目指すのではなく、まず、始良市民や近隣市町村の住民、鹿児島市、霧島市等の周辺観光地を訪れた観光客がちょっと訪れてみたくなる場所になることを目指すことが大切です。

そのターゲット設定を踏まえた上で、少しでも長く始良市を満喫してもらい、再び訪れてもらうため、各地域の観光資源をつなぐストーリーを描き、市内の魅力ある様々な「人」「もの」「情報」との出会いを演出する観光メニューづくりを行います。

また、フットパスと連動したウォーキングツアーや始良市の自然や歴史をありのまま味わう体験型プログラム等を提供することにより、始良市を巡る、体験する、味わう機会を積極的に発信し、観光の目的地としての位置づけの強化を図ります。

② 始良市の魅力を再発見できる記念イベントの企画

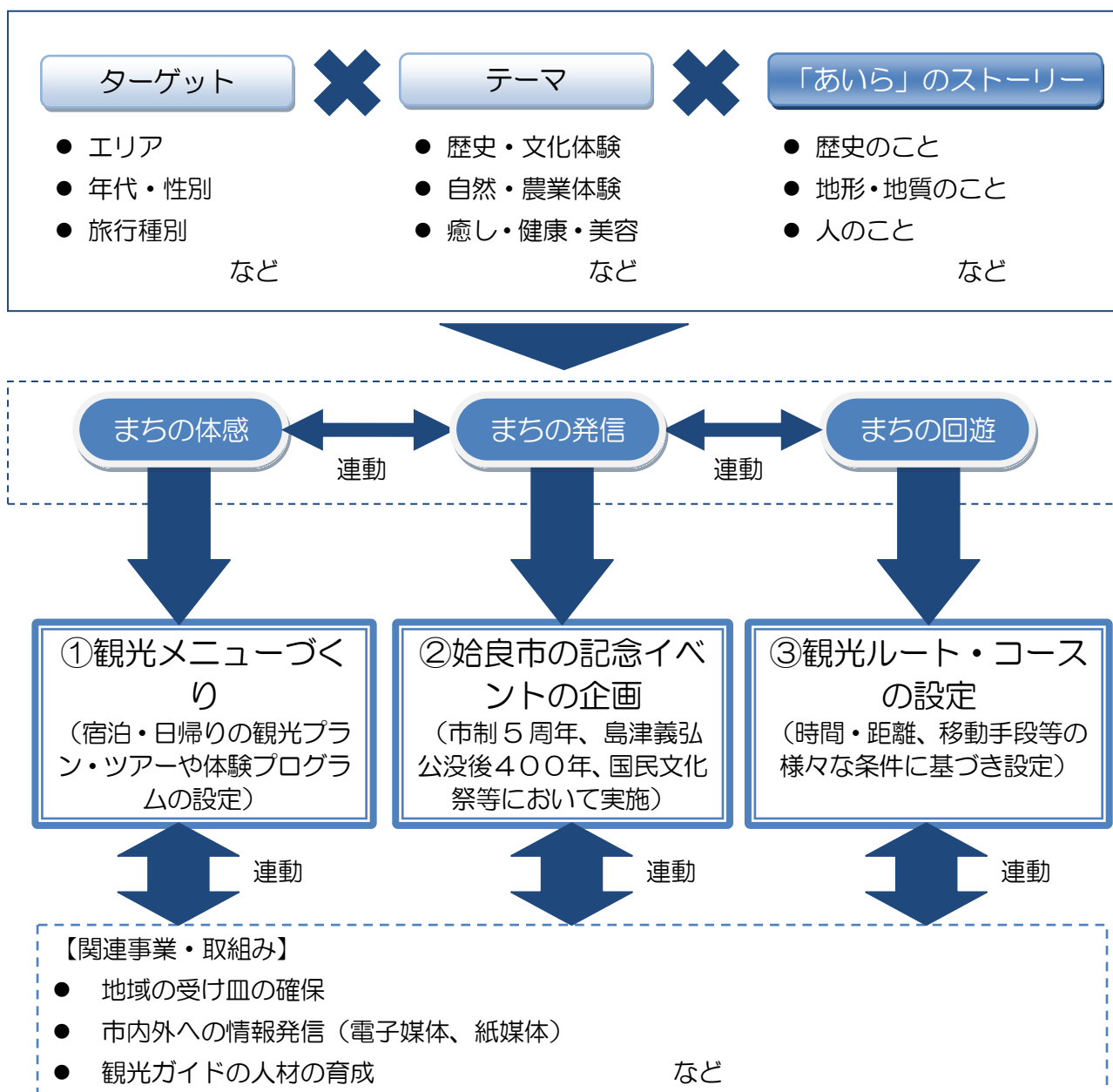
平成27年に市制50周年を迎え、「国民文化祭かごしま」も同時期に開催されます。また、平成30年には島津義弘公没後400年を迎えることになることから、始良市の歴史・文化、自然環境を体感し、始良市の魅力を再発見できる記念イベントを企画、実施します。

③ 豊富な観光資源や地理的特性を活かした観光ルート・コースの設定

観光ルート・コースは、ウォーキング、サイクリング、周遊バスなど、移動手段によって時間や距離、行先等の様々な条件が異なるため、それぞれの制約条件に応じたルート・コースづくりを行います。ウォーキングコースの設定においては、JR駅を最大限に活用し、JR駅を基点に豊かな自然環境や景色を味わいながら周囲の観光資源を巡るなど、癒しと健康志向を意識した企画づくりを行います。

また、グルメ店舗ガイドを発行するなど、「食」を中心とした観光コースについても設定し、各店舗への誘導を図ります。

■多様な観光メニューづくりのイメージ



◆今後5か年の事業内容

事業名	事業概要	担当部署
市制5周年記念事業	平成27年3月23日に市制5周年を迎えることから、始良市の魅力を伝えるイベント等を開催する。また、タイアップメニュー事業として、記念切手の発行や写真コンテスト、九州巨木物語ツアー等を行う。	総務課 商工観光課 社会教育課
国民文化祭関連事業の実施	県内全域で取り組まれる国民的一大イベントである「国民文化祭かごしま」(実施期間:平成27年10月31日～11月15日)において、始良市として次の3事業の実施展開を図り、そのための準備を行う。 ①郷土芸能の祭典(太鼓踊り) ②歩き・み・ふれる歴史の道(三の坂歩き・歴史講演会) ③邦楽の祭典(箏、詩吟、薩摩琵琶、天吹)	社会教育課 他関係各課
島津義弘公没後400年事業の実施	平成30年に島津義弘公没後400年を迎えることから、記念式典や島津義弘公について語る講演会を開催するとともに、市内の島津義弘公ゆかりの地を巡るバスツアー等を企画、実施する。 また、島津義弘公の史跡が立地する他の自治体と連携し、島津義弘公をテーマとした共同PRや広域連携ツアー等を企画、実施する。	商工観光課 社会教育課
多彩なフットパス・ウォーキング・サイクリングコースの設定	観光協会が主体となって企画、実施しているフットパスの継続的实施や新たなコースづくり等の展開を支援する。 ウォーキング・サイクリングコースの設定にあたっては、単に地域の観光資源や景色を巡るだけでなく、癒し、学び等のテーマ別の設定や個人の体力に応じた時間設定等の多彩なコース設定を行うとともに、健康づくりを意識した情報発信を行い、付加価値を高める。	商工観光課 保健体育課
エコツーリズム・グリーンツーリズムの促進	現在、NPO法人等を中心に進めているエコツーリズムや中山間地域で取り組まれているムラマチ交流(市南部や周辺自治体の住民と市中北部の住民との交流など)をはじめとしたグリーンツーリズム等を今後も維持できるように支援し、魅力ある取組みの実施を促進する。	生活環境課 農政課
スポーツツーリズムの促進	始良市内の運動施設や自然環境を活用した各種スポーツ大会やキャンプ・合宿を誘致することに加え、本市主催のスポーツイベントの開催についても検討し、行政内の各部署、関係機関が連携した横断的な受け入れ体制づくりや市民との協働による長期的な運営の基盤づくりを行う。 また、トレッキング、ウォーキング、アクティビティ等の自然をありのまま楽しむことができる環境整備を行う。	商工観光課 保健体育課

事業名	事業概要	担当部署
新たな観光資源の掘り起こしによるメニューづくり	滝や渚等の自然資源、マールや岩石等の地質資源、桜島・錦江湾等の景観資源、干潟をはじめとした独特の生態系資源、街道や神社仏閣、伝統芸能等の歴史・文化資源、田園や古民家等の農村資源等の各種観光資源を掘り起こすとともに、資源間をつなぐストーリーをつくる。そのストーリーに基づき、観光メニューをつくり、提供の際にはストーリーとセットで観光資源の案内ガイドを行う。	商工観光課
新たな周遊観光バスの運行	現在1人500円で土・日・祝日に運行しているあいらびゅー号の次なる展開として、観光オプションや宿泊、買い物（特産品、お土産等）を組み合わせた収益性のある持続的な運行形態を踏まえた新たな周遊観光バス（あいらびゅー号Ⅱ）を運行する。	商工観光課
既存の宿泊施設と連携した宿泊プランづくり	既存の宿泊施設と連携し、旅行のスタイルに応じて観光メニューや飲食店、宿泊先等を自由に組み合わせられる宿泊プランをつくる。	商工観光課
ジャンル別グルメ店舗ガイドの発行	始良市内の各地域に点在する飲食店をジャンル別に紹介した「グルメ店舗ガイド」を発行する。ガイドブックには、始良市の食（特産品、スイーツ、郷土料理、B級グルメ等）をPRするページを設け、それを開発・製造する人や、それを販売・提供する店舗の情報を掲載する。 また、グルメ店舗ガイドを基にWEBサイトを構築するなど、常に新しい情報を収集、発信できる仕組みについて検討する。	商工観光課
始良市の魅力を伝える写真コンテストの開催	美しい景色、祭り、イベントの様子、日常風景等の始良市の魅力を伝える写真を広く公募し、優秀な作品については表彰を行う写真コンテストを開催する。応募作品については、観光PRのための素材とするとともに、全作品を展示したパネル展示等を開催し、市内外に始良市の魅力を伝える機会を設ける。	商工観光課

◆スケジュール

具体的取組み	H26	H27	H28	H29	H30
市制5周年記念事業	準備	実施			
国民文化祭関連事業の実施	準備	実施：10月31日～11月15日		取組みの継続	
島津義弘公没後400年事業の実施		準備・イベント			実施
多彩なフットパス・ウォーキング・サイクリングコースの設定		フットパスの企画、イベント実施、PR			
		コースの設定		PR、イベント企画・実施	
エコツーリズム・グリーンツーリズムの促進		エコツーリズムの継続実施			
		市全体のグリーンツーリズムの企画、受け皿確保		メニュー提供 教育旅行受入れ検討	
スポーツツーリズムの促進	調査・研究		スポーツツーリズムの環境整備		
新たな観光資源の掘り起こしによるメニューづくり		メニューづくり			
		メニューの試行		メニューの提供・PR	
新たな周遊観光バスの運行	「あいらびゅー号」の運行継続				
	運行形態の検証	「あいらびゅーⅡ号」の企画、試行運行		本格運行・PR	
既存の宿泊施設と連携した宿泊プランづくり		連携検討、宿泊プランづくり			
ジャンル別グルメ店舗ガイドの発行		ガイドの制作		発行・PR	
始良市の魅力を伝える写真コンテストの開催	準備	実施		継続的实施	

重点3 観光拠点施設づくり

◆プロジェクトの内容

始良市には観光資源が市内全域に点在し、その数は豊富である一方で、始良市の観光資源が点で存在し、線としてのつながりや面としての広がりがないことが課題となっています。それらの観光資源の情報を提供し、資源間をつなぐ役割を担う観光拠点施設については、蒲生観光交流センターをはじめ各地域に立地している既存の施設はあるものの、どの施設も始良市全体をカバーする機能を有しておらず、始良市観光の情報・受付窓口が明確でないのが現状です。また、個々の観光資源を見たときに、観光資源そのものの状態管理やトイレ、駐車場等の環境整備が十分でなく、観光地として人を呼べる状態でない場所も見られます。

これらの現状を踏まえ、重点プロジェクトとして、観光拠点施設づくりを掲げ、「①市内の観光拠点機能の強化」「②観光地として必要な環境整備」の2つの視点で取り組みます。

① 市内の観光拠点機能の強化

現在、始良市の観光拠点となっている蒲生観光交流センターや蒲生物産館「くすくす館」を基点として観光拠点機能を強化するため、両施設の周辺地域を観光誘導を図るモデル地域として設定し、まずそこに来ってもらうための仕掛けを行い、情報発信や観光メニューの提供などを行うことにより、市全域への波及を図ります。

その他の地域については、龍門滝温泉や整備予定の始良市物産館、(仮称)重富干潟ミニビジターセンター等を観光拠点施設として位置づけ、各地域に存在する観光資源・施設をつなぐことにより、各施設の拠点性を強化します。

また、各地域の観光拠点施設を中心とした地域を一体のゾーンとして売り出し、来訪者が楽しめる観光資源とセットで提案することで、地域としての誘引力を高めます。

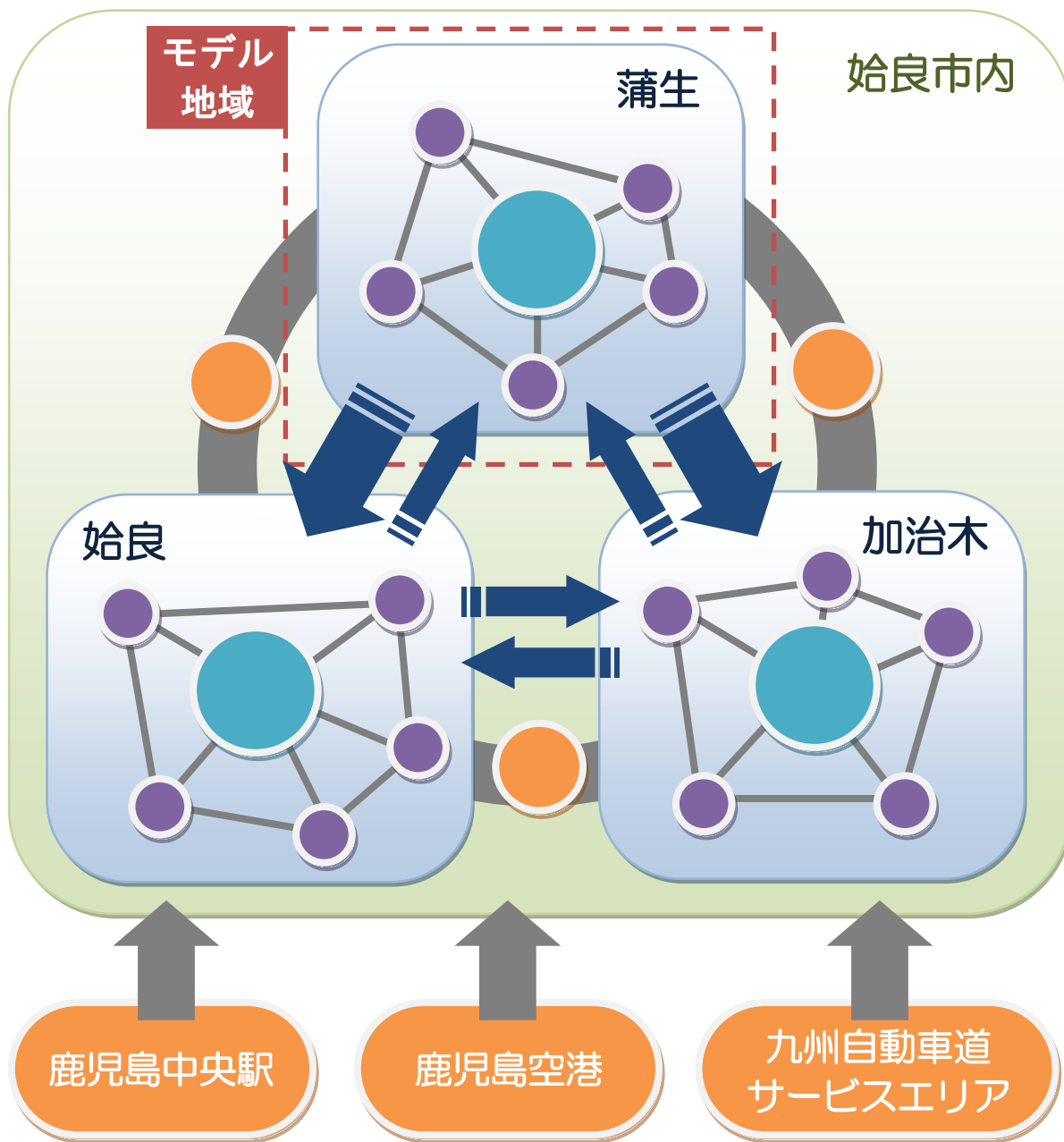
さらに、観光拠点となる施設整備や施設内の機能充実だけでなく、市内外の交通結節点（市内：JR各駅、桜島サービスエリア、市外：鹿児島中央駅、鹿児島空港等）に観光情報発信のサテライトを設け、市内への観光誘導を図るなど、来訪者の動きを踏まえたきめ細かな観光案内策についても併せて展開を図ります。

② 観光地として必要な環境整備

市内に点在するありのままの観光素材を最大限に活用するため、現在、観光地としての整備が十分でない歴史・文化資源の保存・修復を行うとともに、来訪者がその場所を訪れやすいようにトイレ、駐車場等の観光資源周辺の環境整備を進めます。

また、ハード整備だけでなく、各観光資源を巡る観光メニューづくりや魅力ある情報発信等のソフト事業に関しても併せて展開を図ります。

■ 始良市の観光拠点機能の連携イメージ



観光拠点施設（各地域の情報窓口、情報発信＋他地域へ誘導）



観光情報発信サテライト

市内：JR各駅、桜島サービスエリア等

市外：鹿児島中央駅、鹿児島空港、九州自動車道サービスエリア等

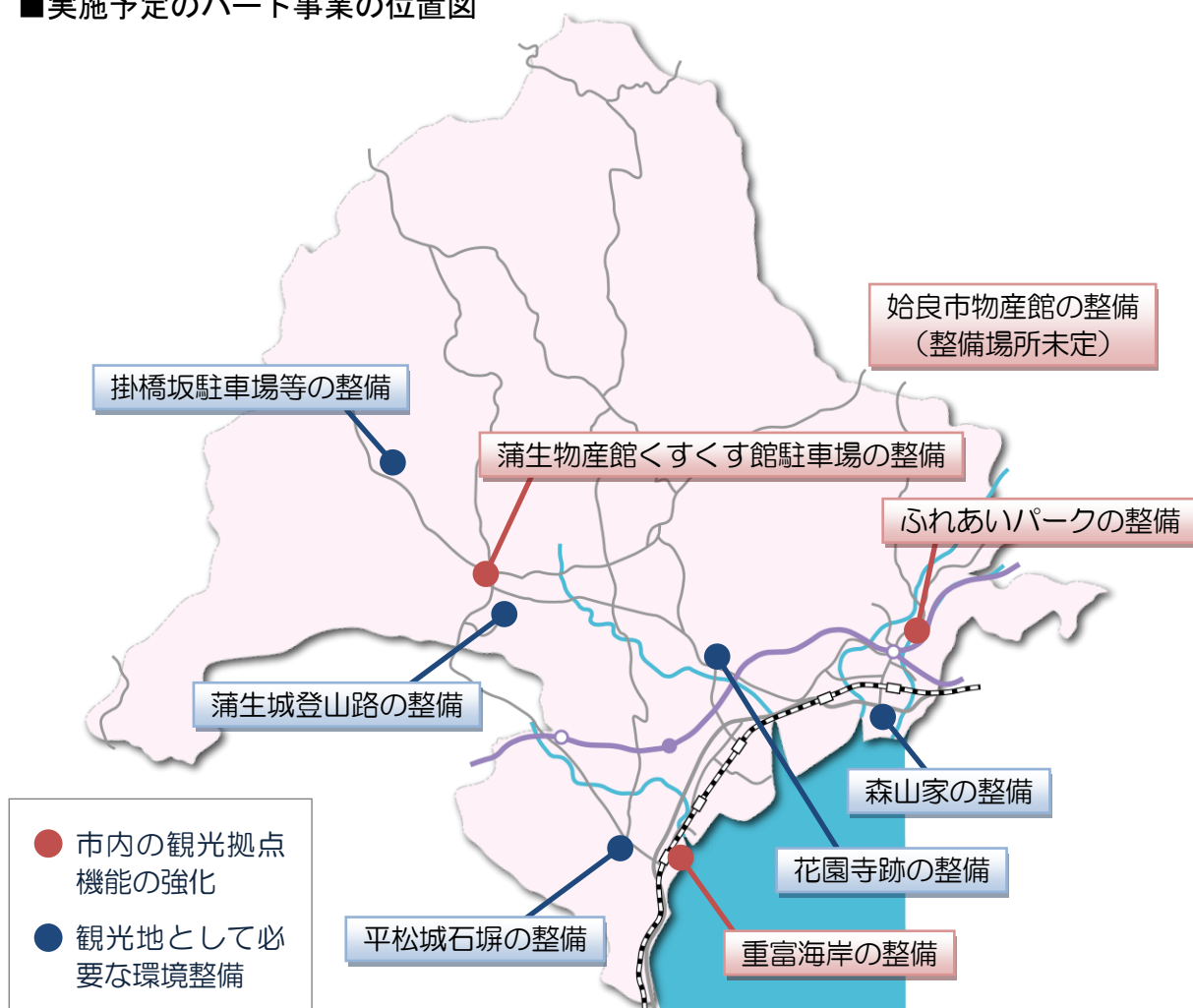


各観光資源・施設

◆今後5か年の事業内容

事業名	事業概要	担当部署
重富海岸の整備	霧島錦江湾国立公園に指定された重富海水浴場エリアを拠点に錦江湾全域の利用展開を図るため、環境省が学習・展示を目的としたミニビジターセンターを建設する。これに合わせて、ミニビジターセンターに隣接する土地を取得し、多目的広場や駐車場を整備するとともに、新たな情報発信基地となる観光交流拠点施設を整備する。整備後は、効果的な施設運営のため、両施設間の連携や地域の情報発信、イベントの開催など、ソフト面の取組みを検討する。	商工観光課
掛橋坂駐車場等の整備	観光の拠点として交流人口の拡大や誘客増加を図ることを目的に、トイレ、駐車場の整備を行う。	蒲生地域振興課
蒲生城登山路の整備	城山公園の敷地内や入り口から公園駐車場までの林道の維持管理を継続するとともに、旧蒲生城跡地という文化財としての側面から既存登山路を再整備する。整備と併せて、整備後の維持管理の方策や文化財の遺跡巡り等のソフト面の取組み企画も検討する。	林務水産課 社会教育課 商工観光課
平松城石堀の整備	平松城跡は、重富小学校所在地である。この城跡の石垣は野面積みで市の指定文化財である。 小学校を囲うフェンスに変えて周辺の景観に合った堀を整備するとともに、路面の整備を行う。	社会教育課
花園寺跡の整備	発掘調査により近世初頭とみられる庭園跡や建物跡が発見され、島津義弘が仏前勤行に励んだ看経所跡と考えられる花園寺跡を島津義弘ゆかりの遺跡として位置づけ、庭園の修復や駐車場、トイレ等の整備を行う。	社会教育課 商工観光課
森山家の整備	平成24年に寄附された加治木町朝日町の国登録文化財「森山家主屋」等（森山家の旧作業所跡は経済産業省の「近代化産業遺産群」に認定）の保存・修復・整備を行い、江戸時代から続く豪商・森山家の歴史と加治木の商工業発達の歴史の学習ができ、港町周辺の散策拠点となる施設とするとともに、鹿児島県全体の近代化産業遺産群の一つとして広域的な連携を図る。保存・整備にあたっては、保存整備策定委員会を立ち上げ、家屋の修復や駐車場、トイレの整備を行う。	社会教育課
ふれあいパークの整備	ふれあいパークのトイレの改修や滝見台の設置などの施設整備を行い、休憩施設及び観光案内並びに観光情報発信の充実を行う。	加治木地域振興課
蒲生物産館「くすくす館」駐車場の整備	蒲生物産館「くすくす館」に新たな駐車場を整備し、駐車台数を確保するとともに、体験型観光を取り入れた加工施設を整備することにより、物産館の持つ機能の充実を図る。	農政課
始良市物産館の整備	始良市の農林水産物・加工品等の物品販売に加え、情報発信機能を併せ持つ施設として、物産館の整備を行う。整備にあたっては、建設後の運営方策についても併せて検討する。	農政課

■実施予定のハード事業の位置図



◆スケジュール

具体的取組み	H26	H27	H28	H29	H30
重富海岸の整備	← 整備 →		-----	← 運営 →	-----
掛橋坂駐車場等の整備	← 整備 →				
蒲生城登山路の整備		← 整備 →			
平松城石塀の整備			← 整備 →		
花園寺跡の整備	← 庭園復元整備 →	← 駐車場・トイレ等整備 →			
森山家の整備	← 策定委員会 で検討 →	← 主要施設の 修復整備 →	← 駐車場 トイレの 整備 →		
ふれあいパークの整備	← 整備 →				
蒲生物産館「くすくす館」駐車場の整備	← 整備 →		-----	← 運営強化・継続 →	-----
始良市物産館の整備	← 基本構想 基本計画 →	← 基本計画 実施設計 →	-----	← 建設 工事 →	← 運営 →



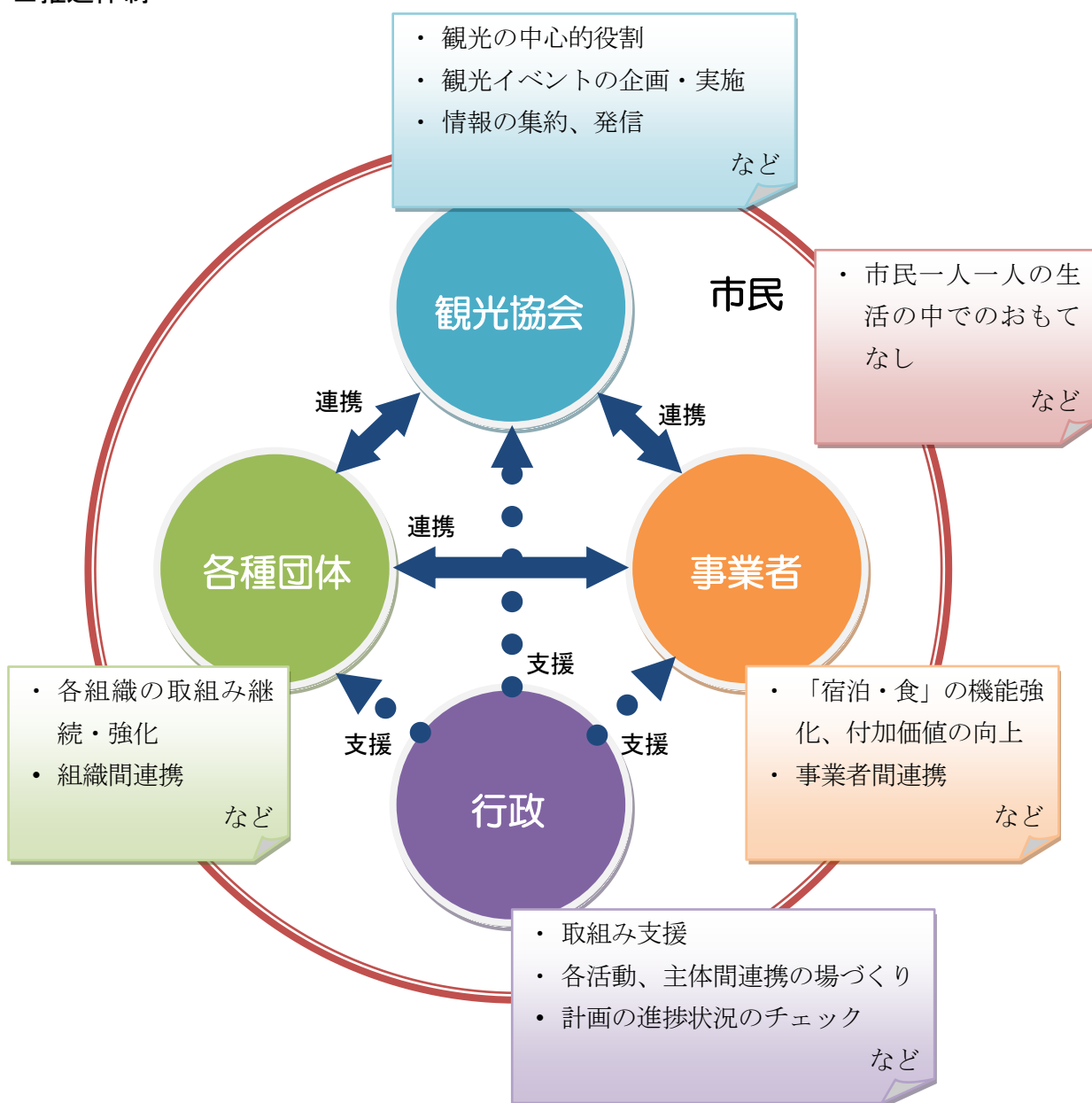
第4章 計画の推進体制

第4章 計画の推進体制

この計画は、本市の5か年の観光振興の方向性と具体的な行動を示す計画であり、計画で位置づけた事業・取組みについて、市民、事業者、団体、観光協会、行政等の多様な主体が一体となって推進していくことが大切です。

また、各事業・取組みの推進にあたっては、個別のアクションプランを定め、それぞれの事業を計画的かつ効果的に進めていくとともに、計画期間の5年間（前期：2か年、後期：3か年）の中で実行と見直しを繰り返しながら進めていくことが必要であり、事業・取組みの実施状況を把握し、計画の見直しを含めたチェック体制を構築します。

■推進体制





資料編

1. 策定経緯

(1) 観光開発審議会及び策定検討委員会の実施経緯

実施日・期間	実施内容	概要
平成 25 年 2 月 25 日	第 1 回 始良市観光基本 計画策定検討委員会	○ 事業概要説明（計画策定の目的・スケジュール、始良市の観光動向、「あいらん家うまいもんフェスタ 2012」で実施したアンケートの結果報告） ○ 始良市の史跡、文化財についての説明 ○ 今後実施する調査の概要の説明
	第 1 回 始良市観光開発 審議会	○ 辞令交付、会長及び副会長選出 ○ 事業概要説明（計画策定の目的・スケジュール、始良市の観光動向、「あいらん家うまいもんフェスタ 2012」で実施したアンケートの結果報告） ○ 始良市の史跡、文化財についての説明 ○ 今後実施する調査の概要の説明
平成 25 年 4 月 8 日	第 2 回 始良市観光開発 審議会	○ 調査の進捗状況の報告 ○ 始良市の観光・歴史資源についての説明 ○ 始良市の観光振興の方向性について意見交換 ○ あいびろー号で現地視察（重富海岸→芝桜園・徳重邸→蒲生ふるさと交流館→蒲生八幡神社→蒲生観光交流センター）
平成 25 年 7 月 17 日	第 2 回 始良市観光基本 計画策定検討委員会	○ 策定スケジュールの説明 ○ 各種アンケートの調査の結果報告 ○ 始良市の観光を考えるワークショップについて ○ 始良市観光企保運計画骨子案について
平成 25 年 7 月 29 日	第 3 回 始良市観光開発 審議会	○ 策定スケジュールの説明 ○ 各種アンケートの調査の結果報告 ○ 始良市の観光を考えるワークショップについて ○ 始良市観光企保運計画骨子案について
平成 25 年 10 月 15 日	第 1 回 始良市観光基本 計画策定作業部会	○ 計画骨子案、素案の説明 ○ 始良市の観光振興につながる事業・取組みについての意見交換
平成 25 年 11 月 5 日	第 3 回 始良市観光基本 計画策定検討委員会	○ 計画素案の説明 ○ 「第 3 章 始良市の観光戦略」についての協議
平成 25 年 11 月 11 日	第 2 回 始良市観光基本 計画策定作業部会	○ 計画素案の説明 ○ 「第 3 章 始良市の観光戦略」についての意見交換
平成 25 年 11 月 19 日	第 4 回 始良市観光開発 審議会	○ 計画素案の説明 ○ 「第 3 章 始良市の観光戦略」についての協議
平成 25 年 12 月 5 日	第 4 回 始良市観光基本 計画策定検討委員会	○ 「第 3 章 始良市の観光戦略」の前回からの修正箇所を中心に説明 ○ 計画素案全体についての協議
	第 3 回 始良市観光基本 計画策定作業部会	○ 「第 3 章 始良市の観光戦略」の前回からの修正箇所を中心に説明 ○ 計画素案全体についての意見交換
平成 25 年 12 月 17 日	第 5 回 始良市観光開発 審議会	○ 「第 3 章 始良市の観光戦略」の前回からの修正箇所を中心に説明 ○ 計画素案全体についての協議
平成 26 年 1 月 9 日 ～2 月 7 日	パブリックコメント	○ 本庁、加治木総合支所、蒲生総合支所、市ホームページにて公開し、意見募集
平成 26 年 2 月 17 日	第 6 回 始良市観光開発 審議会	○ 計画素案の修正点の説明、協議 ○ パブリックコメント結果の説明 ○ 計画（案）の答申についての説明

(2) 委員名簿

① 始良市観光開発審議会

番号	役 職	氏 名	所 属
1	会 長	竹之内 雄作	白金酒造株式会社代表取締役会長 特定非営利活動法人鹿児島グルメ都市企画理事長
2	副会長	福元 寅典	鹿児島純心女子短期大学非常勤講師 元南日本新聞社専務取締役
3	委 員	奈良迫 英光	公益社団法人鹿児島県観光連盟観光プロデューサー
4	〃	浜本 奈鼓	特定非営利活動法人くすの木自然館代表理事
5	〃	田島 健夫	天空の森・忘れの里雅叙苑代表取締役社長 元大霧島観光協会会長
6	〃	柿内 洋二	J R九州鹿児島支社総務企画課営業担当課長
7	〃	今村 雄吉	南国交通株式会社代表取締役社長 公益社団法人鹿児島県バス協会
8	〃	東川 隆太郎	特定非営利活動法人まちづくり地域フォーラム・か ごしま探検の会 代表理事
9	〃	柊原 美恵	始良市観光協会理事
10	〃	長谷川 きよみ	始良市観光協会理事
11	〃	米丸 麻希子	天国葬祭取締役企画部長 株式会社ミソラリンク取締役
12	〃	吉村 里美	特定非営利活動法人Lかごしま
13	〃	藤井 孝良	あいらかリスマボランティア観光ガイド協会会長
14	〃	鶴成 悦久	鹿児島建設専門学校教諭
15	〃	日高 健一	株式会社JTBコミュニケーションズ九州鹿児島支 店支店長代理
16	〃	大西 茂	オフィス大西代表 元城山観光株式会社代表取締役社長
17	〃	濱川 ゆかり	斯文堂株式会社 出版事業部・常務取締役 T Jカゴシマ・M a r r y・かごしま家づくりの本

(敬称略)

② 始良市観光基本計画策定検討委員会

番号	役 職	所 属
1	委員長	副市長
2	委 員	総務部長
3	〃	建設部長
4	〃	農林水産部長
5	〃	水道事業部長
6	〃	教育部長
7	〃	工事監査監
8	〃	企画部長
9	〃	市民生活部長
10	〃	加治木総合支所長
11	〃	蒲生総合支所長
12	〃	建設部都市計画課長
13	〃	教育部社会教育課長
14	〃	市民生活部生活環境課長

③ 始良市観光基本計画策定作業部会

番号	役 職	所 属
1	部 長	企画部長
2	副部長	商工観光課長
3	部 員	秘書広報課広報広聴係
4	〃	生活環境課生活環境係
5	〃	企画政策課企画調整係
6	〃	地域政策課地域政策係
7	〃	加治木地域振興課地域振興係
8	〃	蒲生地域振興課地域振興係
9	〃	都市計画課都市計画係
10	〃	都市計画課公園緑地係
11	〃	都市計画課街路係
12	〃	建築住宅課建築係
13	〃	農政課農政係
14	〃	林務水産課林務水産係
15	〃	教育総務課施設第一係
16	〃	社会教育課社会教育係
17	〃	社会教育課文化財係
18	〃	保健体育課スポーツ振興係

(3) 諮問書

始 商 観 第 690 号
平成 25 年 2 月 25 日

始良市観光開発審議会会長 様

始良市長 笹山 義弘

始良市観光基本計画について（諮問）

始良市観光開発審議会条例（平成 22 年始良市条例第 162 号）第 2 条の規定により、
下記の事項について諮問いたします。

記

1 諮問事項

- ・ 始良市観光基本計画

(4) 答申書

平成26年2月28日

始良市長 笹山 義弘 様

始良市観光開発審議会
会 長 竹之内 雄作

始良市観光基本計画について（答申）

当審議会は、平成25年2月25日付け始商観第690号で諮問のありました「始良市観光基本計画」について、慎重に議論した結果、以下のとおり答申します。

記

- 1 計画に掲げている観光振興の4つの基本方針及び観光振興を実現するための12の基本施策の内容項目については妥当と認める。
- 2 各施策分野を越えて今後5か年で重点的に実施する事業を重点プロジェクトとして位置付けているが、事業の進捗管理と十分な検証を行うこと。
- 3 基本理念に掲げた「おもてなしの心あふれ、“本物”が光るまちづくり」の実現をめざし、本計画に基づいた始良市の観光振興が図られることを要望する。

2. 始良市の特色

(1) 位置

本市は、薩摩半島と大隅半島の結束点、鹿児島県本土のほぼ中央に位置し、南は県都鹿児島市、西は薩摩川内市、東は霧島市と隣接しています。市域は、東西が23.7km、南北が24kmに広がり、面積は231.32km²で、鹿児島県の総面積の約2.5%を占めています。

また、市役所本庁から鹿児島市中心部まで約20km、鹿児島空港まで約12kmと、交通の利便性に優れています。

(2) 地勢

本市は、森林から丘陵、平野及び海岸に至る地勢を有し、その中を思川、別府川、網掛川等の主要河川が流れており、その流れは、鹿児島（錦江）湾に注ぎ、その先には桜島を望むといった、変化に富んだ風光明媚な自然景観を有しています。

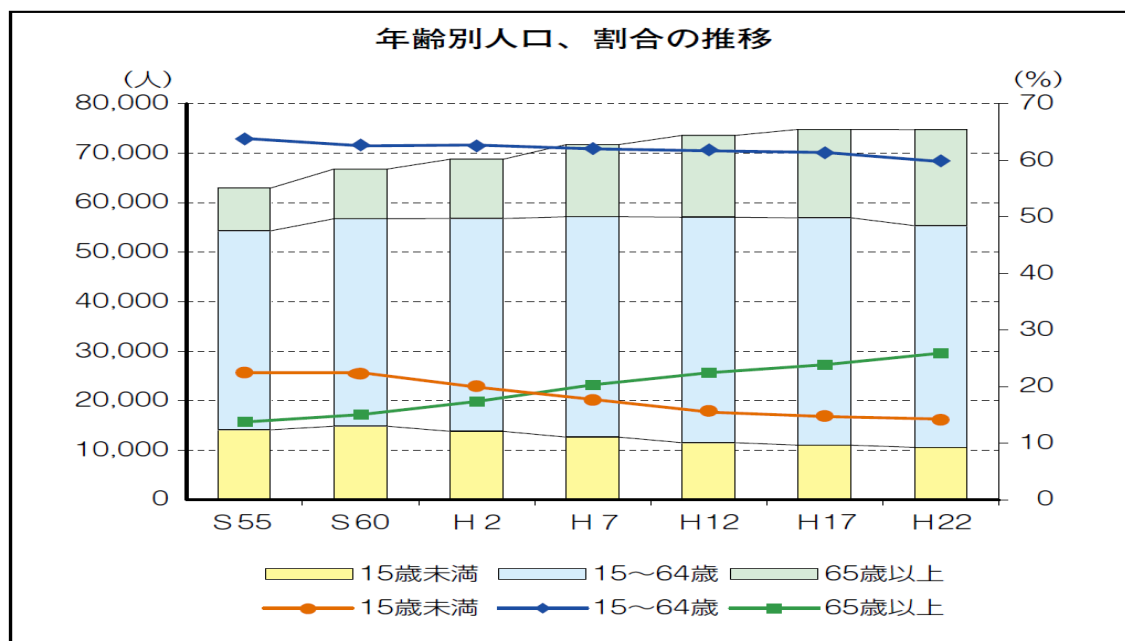
鹿児島市と霧島市に隣接していることから都市化が進みつつありますが、まとまりのある地域の中に豊かな自然を身近に感じることができます。

また、世界有数の地形である始良カルデラは、観光資源としての魅力を有し、国内最大級の海域カルデラ景観等として学術的にも非常に価値があることから、環境省により「霧島錦江湾国立公園」として、国立公園化されました。

(3) 人口

本市の人口は、平成17年の国勢調査では74,840人で、平成2年時点の68,789人に比べ、15年間で6,051人増加しましたが、平成22年の国勢調査においては74,809人となり、これまでの増加傾向から横ばいとなっています。

年齢別人口の推移を見ると、年少人口（0歳～14歳）が減少し、老年人口（65歳以上）が増加するなど、少子化・高齢化の傾向が顕著となっています。



(出典：第1次始良市総合計画)

(4) 交通

本市は、鹿児島県本土のほぼ中央に位置し、九州縦貫自動車道及び隼人道路が通っており、ジャンクションと2か所のインターチェンジがあります。さらに、国道10号及び主要県道が通り、物流の拠点地域としての条件を備えています。

鹿児島（錦江）湾沿いには、JR日豊本線の5つの駅（重富駅、始良駅、帖佐駅、錦江駅、加治木駅）があり、1日約1万人の乗降客があります。

また、商業港である加治木港は、5,000t級の船舶の停泊が可能で、鹿児島（錦江）湾奥における海の玄関の1つとなっています。

このように、道路、鉄道、港と交通の重要な要素であるインフラが整備されており、本市のみならず周辺地域も含め、経済活動の主要な施設となっています。

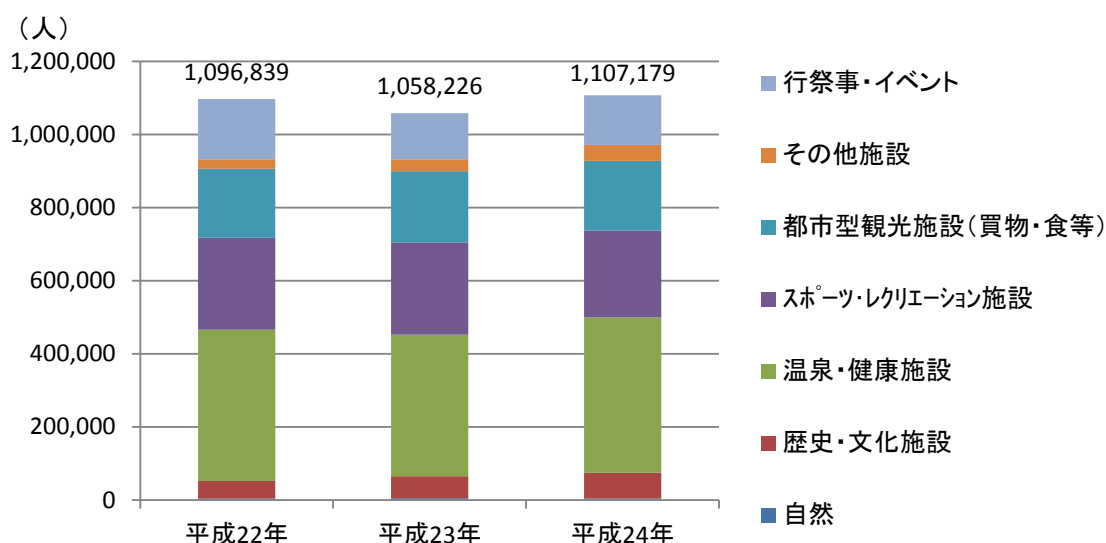
3. 始良市の観光動向

(1) 観光入込客数の状況

観光入込客数は、ほぼ横ばいで推移しています。施設分類別にみると、その他の施設である「蒲生観光交流センター及び別館」や歴史・文化施設の入込客数が増加しており、行祭事・イベントやスポーツ・レクリエーション施設の入込客数がやや減少傾向にあります。観光入込客数の施設分類ごとに占める割合としては、温泉・健康施設が最も多く、全体の4割弱を占めており、次いで、スポーツ・レクリエーション施設が多く、全体の2割強を占めています。

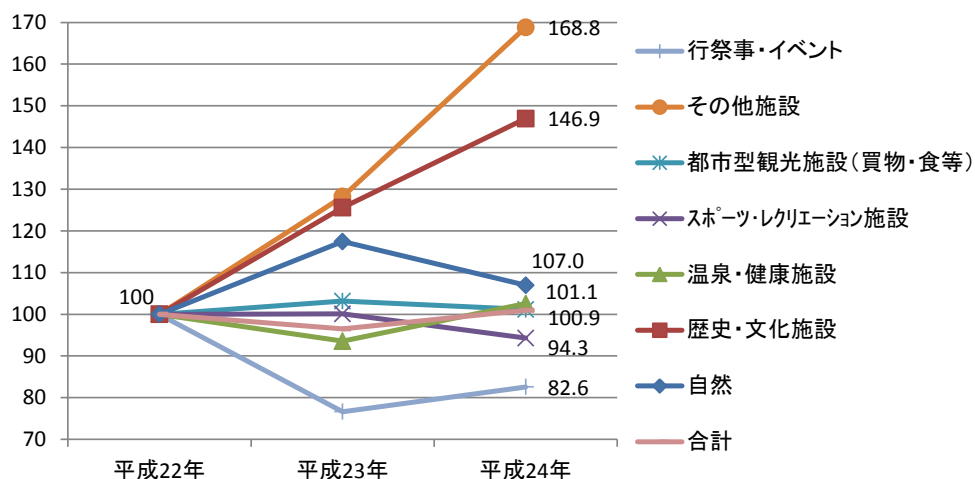
月別にみると、1月は、温泉・健康施設、歴史・文化施設の入込客が多い上、行祭事・イベントでの入込もあるため、年間を通して最も入込客数が多い時期となっています。続いて、スポーツ・レクリエーション施設の入込客が多く、行祭事・イベントでの入込もある8月の入込客数が多く、温泉・健康施設の入込客が多い3月も他の月よりも入込客が多くなっています。

■観光入込客数の推移



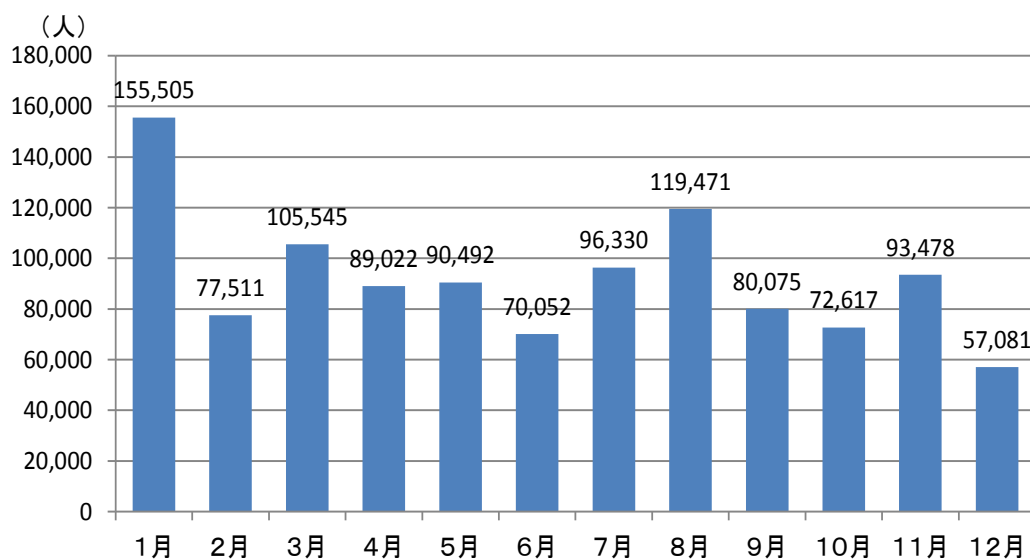
(出典：始良市観光統計)

■観光入込客数の推移（平成22年を100としたときの値）



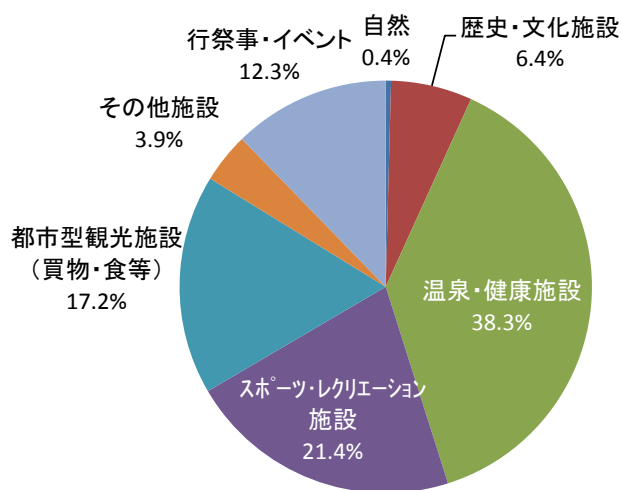
（出典：始良市観光統計）

■月別観光入込客数（平成24年）



（出典：始良市観光統計）

■観光入込客数の施設分類別割合（平成24年）



（出典：始良市観光統計）

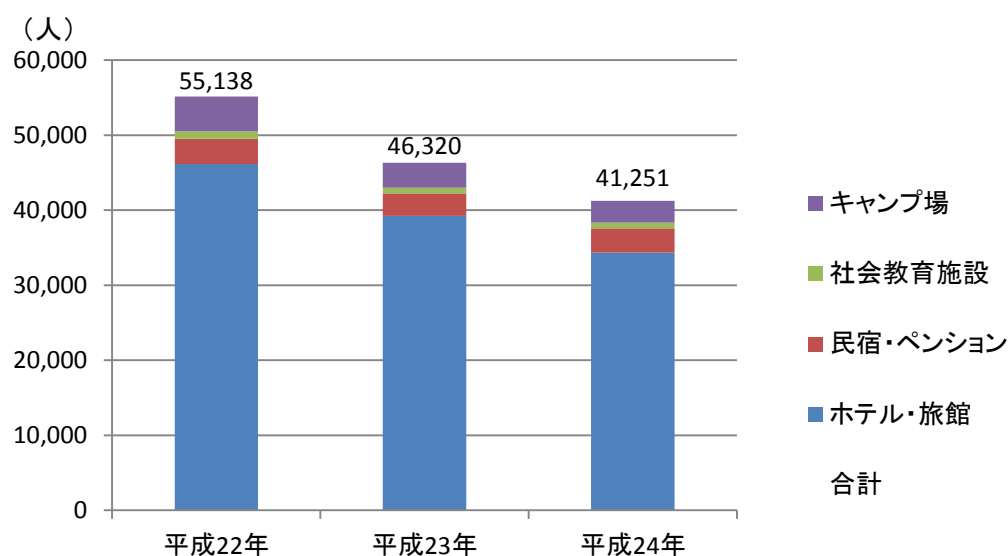
(2) 宿泊者数の状況

観光入込客数に占める宿泊者数の割合は約4%であり、日帰りで始良市を訪れる人が多く、宿泊して長時間滞在する人は非常に少ない状況です。その上、宿泊者は、年々減少しています。

施設分類別にみると、民宿・ペンションはほぼ横ばいであるものの、それ以外は平成22年比で2割以上宿泊者数が減少しており、特にキャンプ場は平成22年の6割程度の利用にとどまっています。観光入込客数の施設分類ごとに占める割合としては、ホテル・旅館が最も多く、全体の8割以上を占めています。

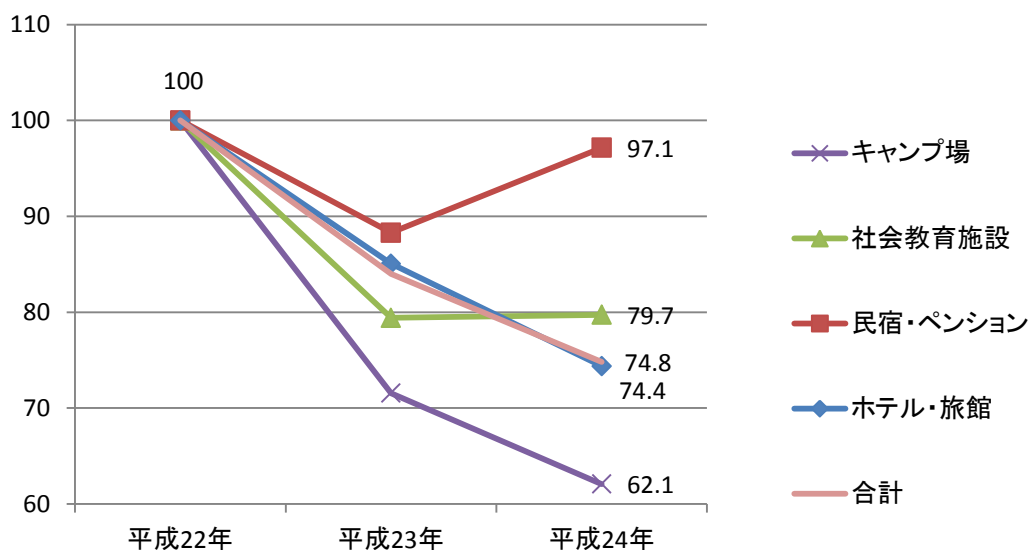
月別にみると、8月が最も多く、夏休みでの旅行需要の増加に伴い、ホテル・旅館やキャンプ場の利用が他の月よりも多く見られます。

■宿泊者数の推移



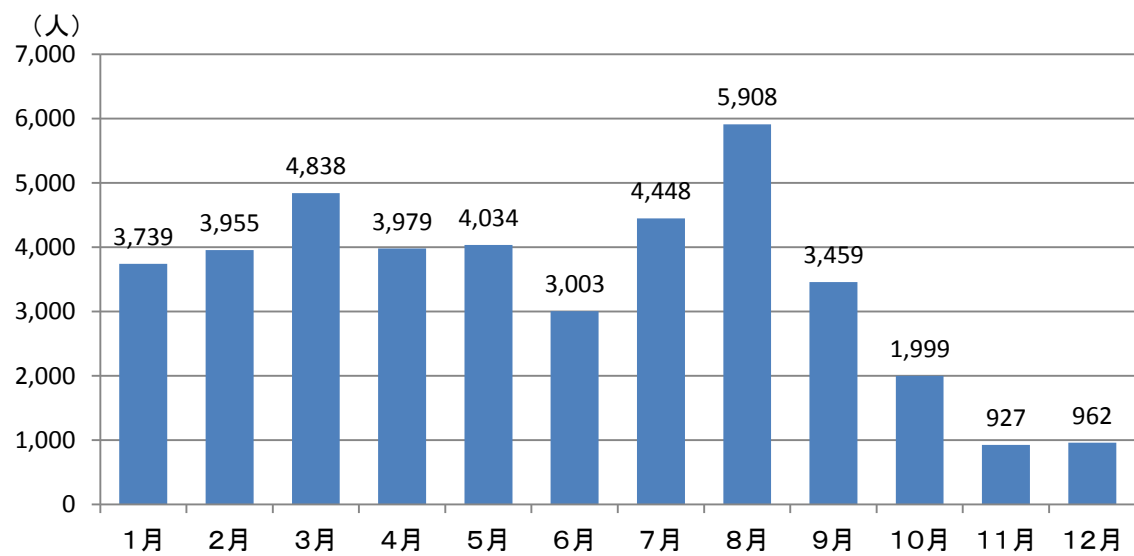
(出典：始良市観光統計)

■宿泊者数の推移（平成22年を100としたときの値）



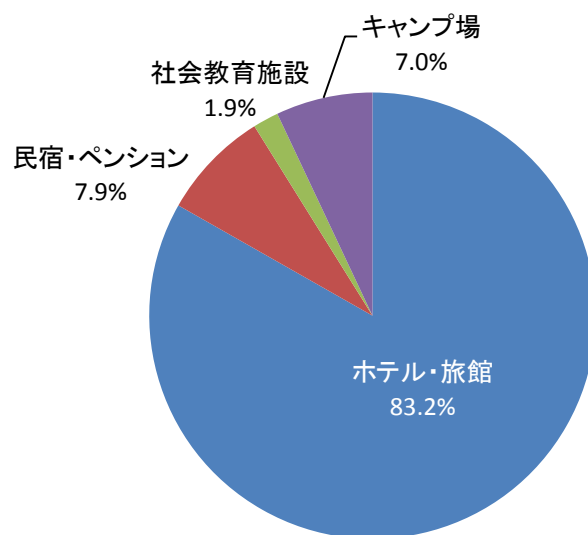
(出典：始良市観光統計)

■月別宿泊者数（平成24年）



（出典：始良市観光統計）

■宿泊者数の施設分類別割合（平成24年）



（出典：始良市観光統計）

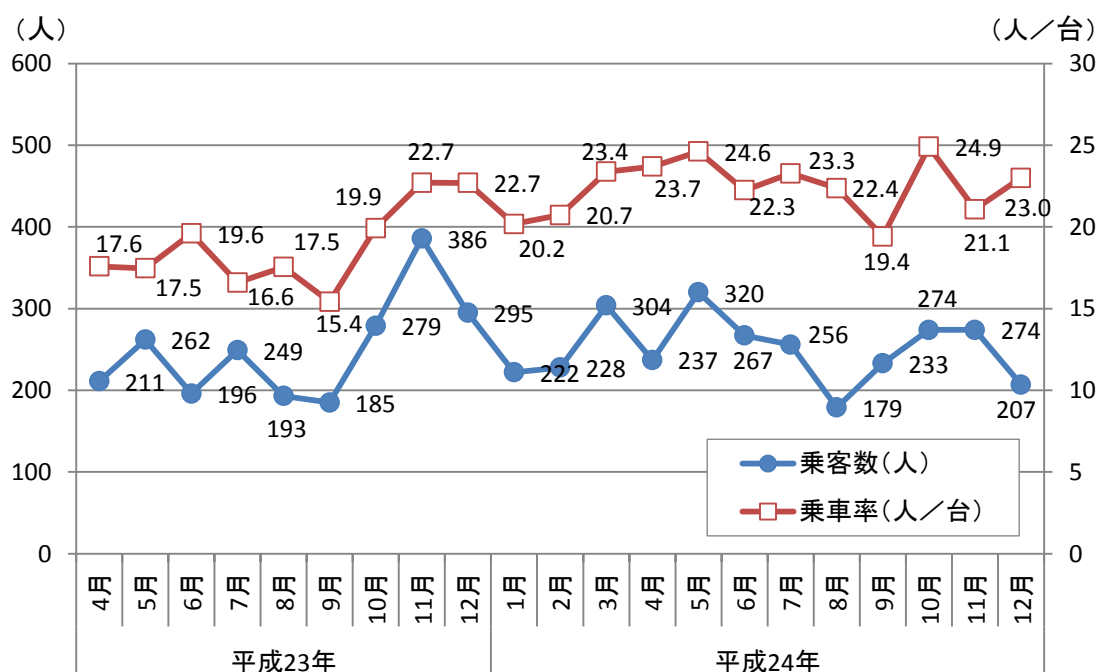
(3) あいらびゅ一号の利用状況

平成23年度から土・日曜日、祝日に1日1便運航している市内周遊観光バス「始良びゅ一号」(乗車料金：500円/人)は、平成24年12月末日現在、述べ5,171人が利用しています。

月別の利用者数はほぼ横ばいですが、1台当たりの利用者数(乗車率)は徐々に伸びており、平均乗車率(平成24年12月末日現在)は、20.8人/台となっています。

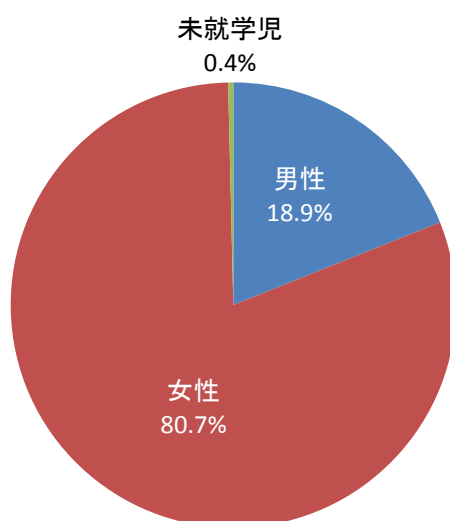
利用属性別にみると、女性の利用が約8割です。あいらびゅ一号のPR戦略が女性をターゲットとしたものであることから、女性の利用ニーズに働きかけていると言えます。

■あいらびゅ一号の利用者数の推移(月別)



(出典：始良市提供資料)

■あいらびゅ一号の利用者属性(平成24年4～12月の合計)



(出典：始良市提供資料)

4. 始良市の観光資源の状況

始良市は、海岸部から山間部に至る多様な自然環境に加え、長年の歴史や文化が息づいており、観光資源は多彩です。特に文化財は県下一の指定数を誇り、重要な観光資源といえます。

また、平成24年3月に霧島屋久国立公園の再編成（屋久島の分離、始良カルデラ等の追加指定）により誕生した霧島錦江湾国立公園の一部に本市が含まれており、重富海岸をはじめとした豊かな自然環境も同じく重要な観光資源です。これらの資源を地図上にプロットし、下記に示します。

■主な観光資源の分布状況



5. 市民及び来訪者意向

(1) 来訪者の観光ニーズ調査の結果

① 調査の概要

顕在ニーズ（市内の施設、イベントの来訪者ニーズ）、潜在ニーズ（周辺観光地や桜島サービスエリアの来訪者ニーズ）を把握、分析し、始良市に立ち寄る条件となる要素や始良市の県内における位置づけ、提供すべき観光メニュー等を検討することを目的に、市内及び近隣市の施設の利用者やイベントの来訪者を対象にアンケート調査を行いました。

■来訪者の観光ニーズ調査の概要

対 象	回答数	調査日・期間	調査方法
始良市内の宿泊施設、観光施設等の利用者	188	平成25年2月～6月	8施設への留め置きにより実施
始良市に隣接する鹿児島市、霧島市の宿泊施設の利用者	36	平成25年5月～6月	5施設への留め置きにより実施
桜島サービスエリア(下り)の利用者	300	平成25年6月29日(土)	調査員による利用者への聞き取り (その場で調査票に記入)
「あいらん家うまいもんフェスタ2012」の来訪者	496	平成24年 12月1日(土)、2日(日)	
「あいらん家まるごと博覧会」の来訪者	44	平成25年3月10日(日)	
計	1,064	-	-

② 調査の結果

調査結果を分析した結果、始良市の観光の強み、弱みとして以下の点が明らかになりました。

■アンケート結果から明らかになった始良市の観光の強みと弱み

強 み	弱 み
・ リピーター率が高い(再来訪意向が高い) ・ 九州各地からの自動車アクセスが良好(とくに福岡、宮崎、熊本から自動車で来やすい立地) ・ 鹿児島市、霧島市をはじめ県内からのアクセスが良好(県内の来訪者が多い) ・ 鹿児島空港からの近接性(九州外からの来訪者の受け皿となるポテンシャル) ・ 家族で訪れる人が多い(家族が楽しめる場所となっている) ・ 来訪者の年代に偏りがない(多様な世代の人が訪れる) ・ あいらビュー号の存在 ・ イベントの評価が高く、イベントが来訪のきっかけ、始良市を知るきっかけになっている ・ イベント参加者の市民の割合の高さ ・ 蒲生の大クスは観光価値が高い(始良市を訪れた人の3人に1人が訪れる、来訪意向が高い)	・ 日帰り客がほとんど、滞在時間が短い ・ イベントの際の滞在時間が短い(他の観光地への立ち寄りPR、誘導が不十分) ・ 鹿児島市や霧島市の宿泊者の立ち寄り先の選択肢として上がらない(PRが不十分) ・ 桜島サービスエリアの立地を活かせていない(始良市への観光誘導ができていない) ・ 知名度が低い(距離が離れば離れるほどその傾向が顕著→メディアの露出の低さ) ・ 九州外からの来訪者が少ない ・ 総花的(ターゲットが明確でない) ・ 観光資源の案内が不足している ・ 温泉のイメージが弱い ・ 公共交通による来訪者が少ない(駅から観光資源や施設へアクセスしづらい)

■調査結果の抜粋

対 象	結果の抜粋
始良市内の宿泊施設、観光施設等(8施設)の利用者	・ 県外(福岡、宮崎等)の来訪者が4割、鹿児島市が2割、霧島市が1割強を占める ・ 3～4人、家族・親族での来訪が多い(とくに鹿児島市からの来訪者)、様々な世代が訪れている ・ 温泉・リフレッシュを目的としている来訪者が多く、宿泊客の半数は市外でも宿泊(始良市のみ宿泊する人も半数)している ・ 九州内からは自動車での来訪がほとんど、九州外からは飛行機を利用した人が半数以上 ・ 観光施設の利用者に関しては、日帰り客(2時間～半日滞在)がほとんど(始良市に宿泊する人は1割程度、鹿児島市、霧島市に宿泊する人はそれぞれ1割強) ・ 県内からの来訪者のほとんど、県外からの来訪者の半数以上がリピーター(また訪れたいと回答した人がほとんど) ・ 始良市を訪れた人の5割弱は複数の場所を訪れる(アンケート回答施設以外では、3割程度は蒲生の大クスを訪れ、15%程度は県民の森、龍門滝を訪れる)
始良市に隣接する鹿児島市、霧島市の宿泊施設(5施設)の利用者	・ 鹿児島市、霧島市の宿泊客のほとんどは始良市に立ち寄る予定がない ・ 始良市に行ったことがある人は15%程度、3割は存在を知らないと回答 ・ 一方で、3割の人が始良市を訪れたい、4割の人が蒲生の大クスを訪れてみたい(また訪れたい) ・ 鹿児島市、霧島市の宿泊客のほとんどが観光要素として温泉を求めており、次いで、歴史・文化、食・農産物を求めている
桜島サービスエリア(下り)の利用者	・ 県内在住者の利用が最も多い ・ 県内在住者にとっては始良市の認知度は高いが、県外は3割、九州外は6割弱の人が知らないと回答 ・ 30代以下は家族・親族、4、50代は夫婦での旅行の割合が高い ・ 鹿児島市へ向かう人が7割強(宿泊する人が6割弱) ・ 温泉・リフレッシュを目的としている来訪者が多い ・ 始良市を訪れる予定にしている人はほとんどいない ・ 観光要素として温泉を求めている人が6割弱、次いで、食・農産物、自然・景色を求めている人が4割弱
「あいらん家うまいもんフェスタ2012」の来訪者	・ 6割が市内在住者、鹿児島市、霧島市の在住者はそれぞれ1割程度 ・ 自動車での来訪がほとんど ・ テレビ、新聞、雑誌が最も活用された情報源、次いで、広報紙 ・ 県外の来訪者の4割がイベントをきっかけに初めて始良市を訪れている ・ 市外在住者の1割強がついでに観光地等を訪れる予定(予定なしが7割強) ・ 7割の人がまた訪れたいと回答
「あいらん家まるごと博覧会」の来訪者	・ 7割が市内在住者(旧始良町在住者が多くを占める)、鹿児島市在住者が1割程度 ・ 自動車での来訪がほとんど ・ テレビ、新聞、雑誌が最も活用された情報源、次いで、口コミ ・ 観光地として蒲生の大クスの知名度が最も高い、次いで、龍門滝(観光地を全く知らない人も1割程度) ・ 物産館・直売所や温泉が必要と回答した人が4割、次いで、3割強の人が宿泊施設が必要と回答
始良市の観光への提言(アンケートの自由意見の主なもの)	・ どこに何があるかわからない、住宅地のイメージ(観光地がピンとこない) ・ 始良市の読み方がわからない ・ PRが必要(県内へのPR、現在あるものをPR、温泉が良いことをPRなど) ・ 店舗、観光ルートの情報が少ない、誘導看板が必要 ・ 定期的にイベントを開催してほしい、イベントは始良市を知るきっかけになる、開催するときはメディアを使って広くPRしてほしい ・ あいらビュー号が良い、バスで巡って始良市を知りたい ・ 「人」を売り出す、ホスピタリティが大切 ・ 宿泊施設が少ない ・ 道の駅をつくってほしい ・ 子どもの遊べる場所がほしい ・ 観光地につながる道路や周辺のトイレの環境整備が必要

(2) 始良市の観光を考えるワークショップの結果

観光地づくりは、行政だけで取り組むのではなく、市民、市内の団体・組織、事業者等がそれぞれ役割を担い、お互いに協働・連携して取り組みを進めることが大切であり、その各主体間の合意形成の場づくりとして全4回のワークショップを開催しました。

ワークショップは、始良市の観光資源や取組み方策、具体的なアクションプラン等を話し合いながら企画することで、実施する事業内容を観光おもてなし計画に反映させるとともに、始良市の目指すべき観光のあり方や取組み方策を共有し、「提言」から「実行」へ、そして継続的な取組みへ向けた「土台」とすることを目的として実施しました。

■ワークショップの開催日時・場所、会場

	開催日・時間	場所
第1回	2013年6月2日(日) 14:00~16:00	始良市文化会館 加音ホール 展示室
第2回	2013年7月28日(日) 10:00~12:00	始良市役所本庁 大会議室
第3回	2013年8月11日(日) 10:00~12:00	
第4回	2013年8月25日(日) 10:00~12:00	

■ワークショップのテーマ・内容

第1回

テーマ 実践者から実例・ヒントを学ぼう(実践者の講演)

《内容》 講演会(講師: 忘れの里雅叙苑・南きりしま天空の森 主人 田島健夫氏)との併催で開催しました。ワークショップでは講演で印象に残った言葉や始良市の10年後の姿を共有しました。



第2回

テーマ 各地域の宝物・人材・活動を知り、共有しよう

《内容》 始良、加治木、蒲生それぞれの「よいところ(宝物、人材、活動等)」「わるいところ(観光に関する問題点等)」を整理し、観光資源の状況と可能性を共有しました。



第3回

テーマ 観光まちづくりに向けて今後の取組みを考えよう

《内容》 始良市の観光まちづくりのためにどういうことを実践すればよいかについて整理し、今後必要な取組みの分類や優先順位を共有しました。



第4回

テーマ 観光まちづくりのアクションプランを考えよう

《内容》 始良市の観光における4つのターゲット(福岡在住のシニア夫婦、東京在住の修学旅行生、鹿児島市在住の若い女性、始良市在住の家族連れ)を想定した取組み企画を整理し、各ターゲットにおいて必要な「観光資源」「情報発信・PR」「食・お土産」「サービス・おもてなし」について共有しました。



6. 用語集

用 語	説 明
ア行	
アクションプラン	ある政策や企画を実施するための行動計画のこと。
アクセス	ある場所へ行く経路。目的地までの交通手段。
アクティビティ	観光地などで体験できる様々な遊びのこと。
インフラ	Infrastructure の略語で、経済活動や社会生活の基盤を形成する構造物。ダム・道路・港湾・発電所・通信施設などの産業基盤、および学校・病院・公園などの公共の福祉にかかわる施設が該当する。
WEB（ウェブ）	インターネットで標準的に用いられる情報提供システムの一つ。
WEBサイト	インターネット上でひとまとまりに公開されている複数のWEBページの集合体のこと。
エコツーリズム	環境問題に重点を置きながら、自然と調和した観光開発を進めようという考え方。
SNS	Social Networking Service の略語で、個人間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援する、インターネットを利用したサービスのこと。
NPO	Non-Profit-Organization（非営利組織）の略語で、営利を目的とせず、社会貢献を目的として活動する民間の団体のことをいう。市民活動団体やボランティアグループ、自治会等もNPOに含まれる。
カ行	
カモコレ	始良市蒲生町「蒲生郷」を再発見し楽しむためのイベントの総称。蒲生ワクワクコレクションを省略して「カモコレ」と呼んでいる。
基幹産業	経済活動を支えている最重要な産業分野のこと。
協働	同じ目的のために、協力して働くこと。ここでは、まちづくりを市民・行政が協力して進めることを指す。
グリーン・ツーリズム	農村や漁村での滞在型休暇のことで、都市住民が農家などに宿泊して農作業を体験したり、その地域の歴史や自然に親しむ余暇活動のこと。
顕在ニーズ	はっきり目に見える形で表れている需要のこと。
交通結節点	異なる交通手段を円滑に転換させるための機能を持った場所で、バスと電車の乗り換えを行う駅前広場等をいう。
国民文化祭	全国各地で行っている各種の文化活動を全国的規模で発表、競演、交流する場を提供することにより、国民の文化活動への参加の機運を高め、新しい芸術文化の創造を促すことを狙いとした祭典。平成 27 年に鹿児島県で開催予定。
コミュニティ	居住地域を同じくし、利害をともにする共同社会。町村・都市・地方など、生産・自治・風俗・習慣などで深い結び付きを持つ共同体のこと。
コンベンション	博覧会や見本市などの大規模な催しのこと。
サ行	
サテライト	英語の satellite（衛星）の音訳で、「本体から離れて存在するもの」の比喩として使われる。市役所から離れたところにも、窓口業務を設置すること。
参画	行政施策の決定などに積極的に参加し、意見や提案などを述べること。
JRの5つの駅	重富駅、始良駅、帖佐駅、錦江駅、加治木駅のこと。
ジオパーク	ジオ（地球）に親しみ、ジオを学ぶ旅、ジオツーリズムを楽しむ場所のこと。足元の地面の下にある岩石から宇宙まで、数十億年の過去から未来まで、山と川と海と大気とそこに住む生物について考える、つまり地球を丸ごと考える場所のこと。ジオパークと名乗るには、日本ジオパーク委員会の審査に合格する必要がある、世界ジオパークネットワークの審査に合格すれば「世界ジオパーク」を名乗ることができる。
指定管理者	民間等のノウハウを導入するため、地方自治体が所管する公の施設の管理・運営を委託した民間事業者を含む法人やその他の団体のこと。
新型インフルエンザ	平成 21 年の春に発生した新しいウイルスが原因となっているインフルエンザのこと。

用 語	説 明
スポーツツーリズム	プロスポーツなどの観戦や、マラソン、ウォーキングなどのスポーツイベントへの参加を目的とし、開催地周辺の観光と組み合わせた旅行スタイルのこと。レジャースポーツ（休暇中に行う娯楽としてのスポーツ）、アクティビティ（観光地などでのさまざまな遊び）、アミューズメント（娯楽）などの幅広い旅行行動も含まれる。
スマートインターチェンジ	高速道路の本線上またはサービスエリア（SA）、パーキングエリア（PA）、バスストップ（BS）に設置されているETC専用のインターチェンジ（IC）のこと。
潜在ニーズ	表面にはっきりと表れていない需要のこと。
ゾーニング	ある特定の領域の中をエリアに分けて、それぞれのエリアに性格付けをすること。
ソフト施策	ハード（施設等）の整備ではなく、ハードの利活用や仕組みづくりに重きを置いた施策のこと。
タ行	
地産地消	地域生産地域消費の略で、地元で生産されたものを地元で消費すること。
着地型観光	旅行者を受け入れる側の地域（着地）側が、その地域でおすすめの観光資源を基にした旅行商品や体験プログラムを企画・運営する形態のこと。
トレッキング	高山の山麓を徒歩で旅行すること。山歩き。
ナ行	
ニューツーリズム	従来の物見遊山的な観光旅行に対して、これまで観光資源としては気付かれていなかったような地域固有の資源を新たに活用し、体験型・交流型の要素を取り入れた旅行の形態のこと。
ハ行	
バリアフリー	高齢者や障がい者の活動の場を広げ、自由な社会参加が可能となる社会にしていいため、道路、建物等の段差など生活環境面における物理的な障壁（バリア）を除去（フリー）するという意味。また、高齢者や障がい者等に対する差別や偏見といった心のバリアを除去するという使い方もされる。
パワースポット	その場所に行くことによって、それまでに感じなかった不思議な力を感じ、その力によって元気になったり、健康になったりするような気がする場所。いわゆる自然崇拜や山岳信仰の対象となる場所で、大きな岩や湧き水、滝、洞窟などがあることも多い。最近では神社などもパワースポットとされることがある。
B級グルメ	高級な食材や一流のサービスによる「A級」の料理ではなく、日常的に食べられている安くて庶民的なおいしい料理。ラーメン、お好み焼き、うどん、焼きそば、カレーライス、ハンバーガー、どんぶり物などが、代表的なB級グルメとされる。
フットパス	イギリスを発祥とする「森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと（Foot）ができる小径（こみち）（Path）」のこと。
プレイベント	本番の催しの前に行う行事、催しのこと。
プロット	データを図表上に示すこと。
マ行	
マール	爆発的な噴火によって生じた火口で円形またはそれに近い輪郭をもち、周縁に顕著な堆積物の丘をもたない火山地形のこと。
マスタープラン	全体の基本となる計画のこと。都市計画マスタープランは、長期的視点にたった都市の将来像を明確にし、その実現にむけての大きな道筋を明らかにするもの。
ヤ行	
有機農産物	農薬や化学肥料を原則として使用せず、堆肥などによって土づくりを行った水田や畑で栽培された農産物のこと。
用途地域	都市計画で定めることのできる地域区域の最も基本となるもので、土地の合理的利用を図り、市街地の環境の整備、都市機能の向上を目的として、建築物の建築を、用途や容積等により規制する制度で、12種類ある。

用 語	説 明
ラ行	
リーマンショック	国際的な金融危機の引き金となったリーマン・ブラザーズの経営破綻とその後の株価暴落などを指す。
ローリング	計画の実行⇒分析・評価⇒計画の修正・実行というサイクル（循環）を繰り返していく方法のこと。
6次産業化	農畜産物の生産（第1次産業）だけでなく、食品加工（第2次産業）、流通・販売（第3次産業）にも農業者が主体的かつ総合的に関わることで農業者所得の向上を図るもので、第1次産業から第3次産業までの数字を乗じた造語のこと。
ワ行	
ワークショップ	参加者同士がアイデアを出し合い、意見交換を行いながら、提案として取りまとめる、意見集約のための手法のこと。いろいろな人と話をする中で、新たな視点や気づきが期待できる。

始良市観光おもてなし計画

発行年月日：平成26年3月

発行：始良市 企画部 商工観光課

〒899-5492 鹿児島県始良市宮島町25番地

TEL：(0995) 66-3111（代表） FAX：(0995)65-7112

